

岐阜県アレルギー疾患拠点病院委託事業

# 岐阜県内の学校現場における アレルギー対応の実態調査

養護教諭に対する調査 報告書

令和元年度

岐阜大学医学部附属病院 小児科

同 アレルギーセンター

岐阜県内の学校現場におけるアレルギー疾患の実態調査  
養護教諭に対する調査 報告書

目次

---

第Ⅰ章	調査研究の概要
1.	背景
2.	目的
3.	実施体制
4.	対象
5.	方法
6.	調査票の概要
7.	調査票の回収と有効回答
第Ⅱ章	アレルギー疾患を認める児童生徒数の概要
1.	疾患の総数
2.	学校生活管理指導表の提出
3.	エピペン®を所持する児童生徒の数と学校数
4.	学校生活管理指導表の活用
第Ⅲ章	アナフィラキシーに対する調査項目
1.	エピペン®の保管場所
2.	アレルギー研修会について
3.	食物依存性運動誘発アナフィラキシーへの対応
第Ⅳ章	食物アレルギーに対する調査項目
1.	食物アレルギー児の保護者との個別面談とその回数
2.	食物アレルギー対応委員会の開催
3.	給食の方式と給食対応のレベル
4.	給食で提供されないことになっている食品
5.	給食で代替食の提供が可能である食品
6.	誤配・誤食防止のための対応
第Ⅴ章	その他のアレルギー疾患等に対する調査項目
1.	食物アレルギー・気管支喘息で運動制限がある児童生徒
2.	環境衛生管理に関する調査項目
3.	学校での動物の飼育と配慮が必要な児童生徒への対応
4.	アトピー性皮膚炎に対する配慮
第Ⅵ章	養護教諭の業務とアレルギー疾患への認識
1.	食物アレルギーに対する学校現場での実際の対応数
2.	アレルギー疾患をもつ児童生徒の受け入れについての認識
第Ⅶ章	学区別のデータのまとめ
第Ⅷ章	総括
資料編	アンケート用紙（写し）

# 第 I 章

## 調査研究の概要

### 1 背景

アレルギー疾患は近年我が国の約 2 人に 1 人は罹患するとされている。平成 26 年 6 月にアレルギー対策基本法が成立し、平成 27 年 12 月に施行されたことをうけて各県にアレルギー拠点病院が整備され、アレルギー疾患の診療の均霑化（きんてんか）などが求められている。この法律による対象疾患は、「気管支ぜん息」、「アトピー性皮膚炎」、「アレルギー性鼻炎」、「アレルギー性結膜炎」、「花粉症」及び「食物アレルギー」と定義されているが、これらの疾患の学校現場での対策が十分であるかの具体的調査は限られている。

### 2 目的

岐阜県全域の公立小中学校のアレルギー疾患の調査を行うことで、各地域の医療の実態や未解決の問題を探り、今後のアレルギー疾患の対策に資する情報を得ることが目的である。岐阜県は公立学校に通う小中学生が多く、公立小学校・公立中学校およびその児童・生徒を対象とすることでおおむね県域全体の調査ができることになる。これまでにこのような調査は県内で行われてはならず、今後のアレルギー疾患対策を考える上で意義のある情報を得ることができる。

### 3 実施体制

上記の主旨に沿った調査を実施する目的で、岐阜大学医学部附属病院小児科およびアレルギーセンター内で研究グループを組織し、岐阜県教育委員会の全面的な協力のもと、研究を実施した。今回の調査研究については、研究の計画について岐阜大学大学院医学系研究科倫理審査委員会の審査を受け、岐阜大学大学院医学系研究科長および岐阜大学医学部附属病院長の許可を得て行った。

### 4 対象

対象は、岐阜県内の公立小中学校に勤務している養護教諭（ないし相当の職種の人）とした。岐阜県教育委員会の協力を経て回収し、研究グループにおいて解析を行った。同時にアレルギー疾患管理指導表を提出している児童生徒の親からのアンケートも実施しており、別途解析をすすめている。

## 5 方法

養護教諭の調査については、毎年岐阜県教育委員会が行っている「食物アレルギーを有する児童生徒等の状況調査」に代わる調査として岐阜県教育委員会の協力を得て行った。令和元年（2019年）7月に調査を実施した。マークシート形式のアンケート用紙をもちいて調査を行った。アンケート用紙の情報は、読み取りソフトを使用して取得し、後に研究グループにおいて入力値の確認を行った。

## 6 調査票の概要

調査票の項目には以下のような項目を含む：児童生徒数、アレルギー疾患（食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎）をもつ児童生徒の数（総数と各疾患ごとの数）、アレルギー疾患管理指導表の活用、食物アレルギー児への対応（食物アレルギー対応委員会、アレルギー疾患個別対応マニュアル、食物アレルギー児の家族との面談、運動制限、進学時の情報提供、アレルギー対応研修会、誤配や誤飲・誤食を防止するために実施していること）、アレルギー疾患に対する管理指導表ないし診断書の提出数と未提出数（総数と疾患ごとの数）、給食（給食の方式、対応レベル、代替食、提供しないことにしている食品）アナフィラキシー児への対応（昼食後の体育について、エピペンを預かっている児童生徒数、エピペンの保管場所）、環境整備（普通教室の床の材質、環境衛生管理としてのダニ測定、動物の飼育）、アトピー性皮膚炎（夏期シャワー浴の可否、軟膏塗布の介助の可否）、緊急対応の例数（アナフィラキシーによる救急搬送、エピペンの接種数など）、アレルギー疾患を持つ児童生徒の受け入れについての養護教諭の意識など。詳細は資料編のアンケート写しに掲載した。

## 7 調査票の回収と有効回答

調査票は岐阜県内の公立小中学校および特別支援学校に教育委員会を通じて配布し、学校単位での回答を依頼した。小学校中学校の併設校や特別支援学校においては、小学部、中学部ごとに記載を依頼した。今回は、例年教育委員会が実施している「食物アレルギーを有する児童生徒等の状況調査」にかわる調査と位置づけて調査頂いたことから、小中学校のすべてから回答を得ることができた。

表 1 調査の対象となった小中学校数調査の対象となった児童生徒数

	小学校	中学校	その他	全体
学校数(校)	364	172	25	561

注：その他は特別支援学校 20 校、併設校 3 校、義務教育学校 2 校

表 2 調査の対象となった児童生徒数

	小学生	中学生	全体
児童生徒数(人)	10,6544	53,961	160,505

## 第II章

# アレルギー疾患を認める児童生徒数の概要

### 1 疾患の総数

疾患の総数としては、全生徒の 31.4%が何らかのアレルギー疾患に罹患していることが確認された。疾患の総数は保護者による学校への申告などによると思われるため、実際の有病率と比べて少し少ない傾向にあることが考えられる。有病率でもっとも多いのはアレルギー性鼻炎で小学生に比べて中学生が多くそれぞれ 16.5%と 21.6%であった。また、食物アレルギーの割合はアレルギー性鼻炎について多い結果であった。これは給食の対応のために申告率が高いためと考えられた。

図1 各アレルギー疾患の割合

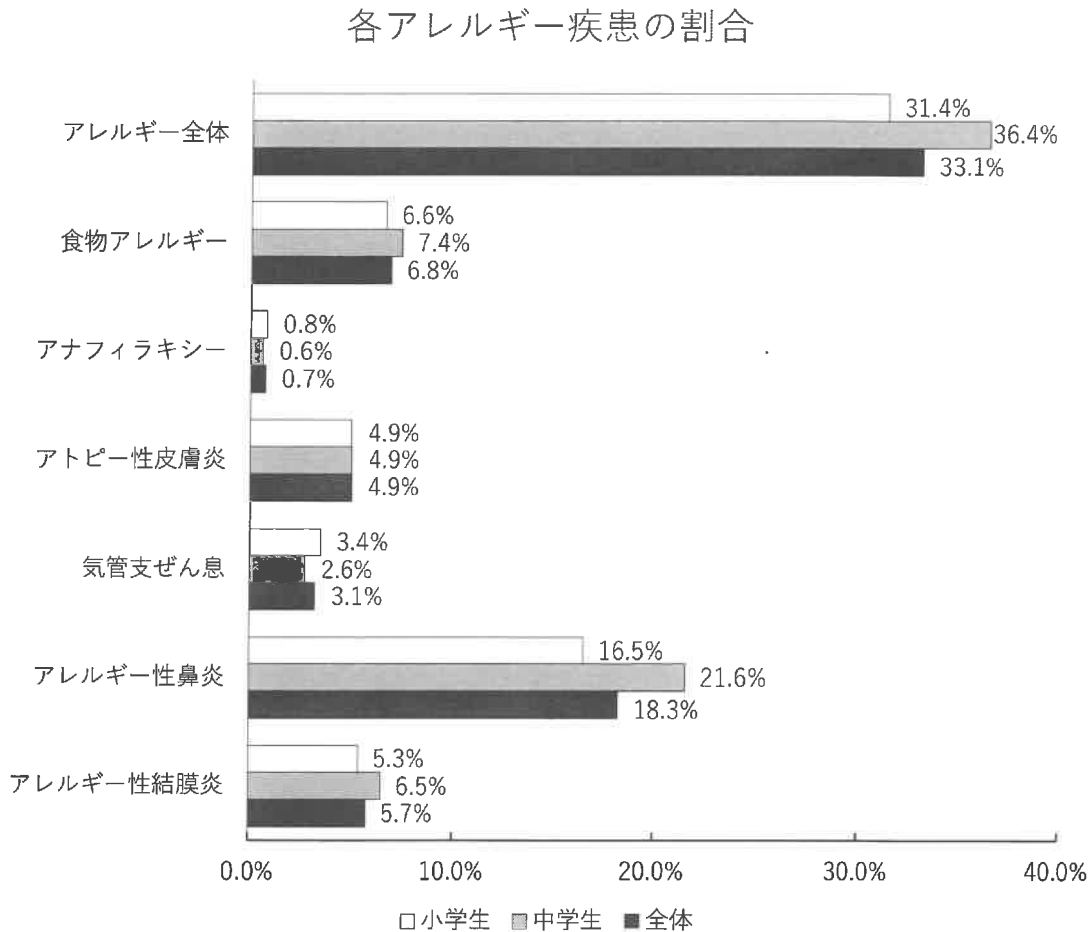


表3 アレルギー疾患の総数と各アレルギー疾患の数

		アレルギー総数	食物アレルギー	アナフィラキシー	アトピー性皮膚炎	気管支ぜん息	アレルギー性鼻炎	アレルギー性結膜炎
小学生	人数(人)	30,118	6,037	803	5,023	34,51	16,108	5,179
	(%)	31.4%	6.6%	0.8%	4.9%	3.4%	16.5%	5.3%
中学生	人数(人)	18,369	3,933	311	2,539	1,348	11,134	3,329
	(%)	36.4%	7.4%	0.6%	4.9%	2.6%	21.6%	6.5%
全体	人数(人)	48,487	10,870	1,114	7,562	4,799	27,242	8,508
	(%)	33.1%	6.8%	0.7%	4.9%	3.1%	18.3%	5.7%
回答	学校数(校)	547	580	578	562	560	549	544
学校数	(%)	93.3%	99.0%	98.5%	95.9%	95.6%	93.1%	92.8%

※回答学校数は特別支援学校等の小中学部を分けて計算

## 2 学校生活管理指導表の提出

実際の学校生活管理指導表の提出は食物アレルギーがある場合には72.3%と高く、アナフィラキシーを認める場合には94.4%と特に高い割合で提出されていることがわかった。

表4 管理が必要な児童生徒数と実際に管理表が活用されている児童生徒数

		アレルギー総数	食物アレルギー	アナフィラキシー	アトピー性皮膚炎	気管支ぜん息	アレルギー性鼻炎	アレルギー性結膜炎	
管理	人数(人)	13,321	6,588	967	2,033	1,552	5,579	2,271	
必要数	(%) <sup>※1</sup>	9.9%	4.3%	0.6%	1.4%	1.1%	4.1%	1.7%	
管理表 <sup>※2</sup>	人数(人)	5,504	4,760	913	625	565	1,200	779	
提出数	(%) <sup>※1</sup>	4.1%	3.1%	0.6%	0.4%	0.4%	0.9%	0.6%	
管理表 <sup>※2</sup>	活用率 <sup>※3</sup>	(%)	41.3%	72.3%	94.4%	30.7%	36.4%	21.5%	34.3%
回答	校数(校)	506	557	546	523	522	511	505	
学校数 <sup>※4</sup>	(%)	86.3%	95.1%	93.2%	89.2%	89.1%	87.2%	86.2%	

※1 有効回答が得られた学校の全児童生徒数を母数とした。

※2 学校生活管理指導表や医師からの診断書

※3 有効回答が得られた学校の各疾患で管理を必要とする児童生徒数を母数とした。

※4 回答学校数は特別支援学校等の小中学部を分けて計算

### 3 エピペン®を所持する児童生徒

アナフィラキシーの治療剤であるアドレナリン自己注射薬（エピペン®）を所持する児童生徒数は全体の生徒の0.5%であったが、エピペン®を所持している生徒がいる学校は全体の半分以上を越える58.1%であることがわかった。また、いずれも低年齢の方がエピペン®を所持している児童生徒が多いことが示された。

表5 エピペン®を所持する児童生徒数とエピペン®を所持する児童生徒がいる学校数

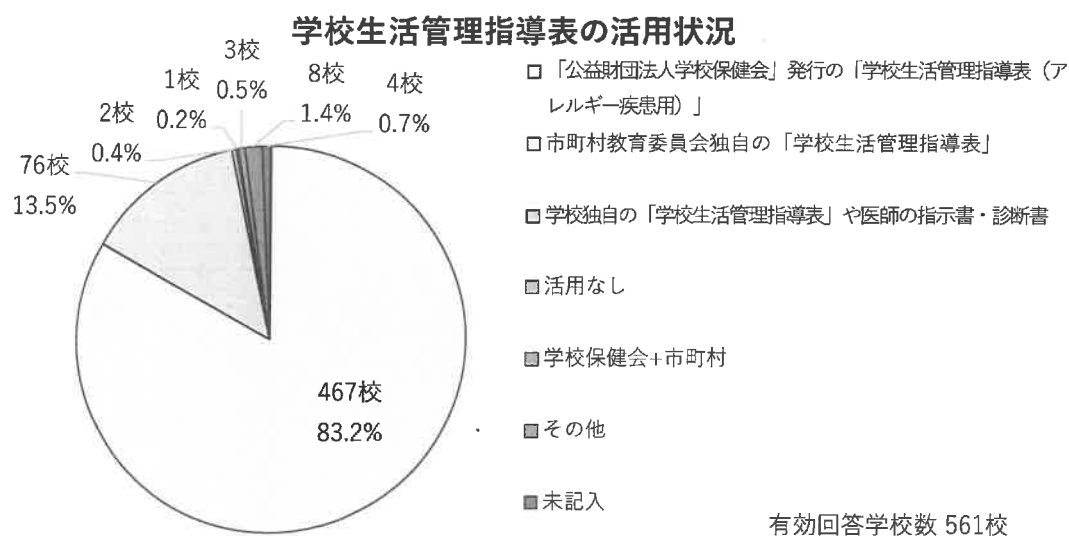
	人数/学校数 (人/校)	割合
エピペン®所持児童生徒数		
小学生	589	0.6%
中学生	186	0.3%
全体	775	0.5%
エピペン®所持児が在学する学校		
小学校	219	60.2%
中学校	97	56.4%
その他	10	40.0%
全体	327	58.1%

※有効回答が得られた学校の全児童生徒数、全学校数を母数とした。

### 4 学校生活管理指導表の活用

学校生活管理表はおおむね「公益財団法人学校保健会」発行の「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」を使用している学校が多かったが、市町村教育委員会独自のフォーマットを利用しているものや学校独自の書類を用いている場合もあった。

図2 学校生活管理指導表の活用状況



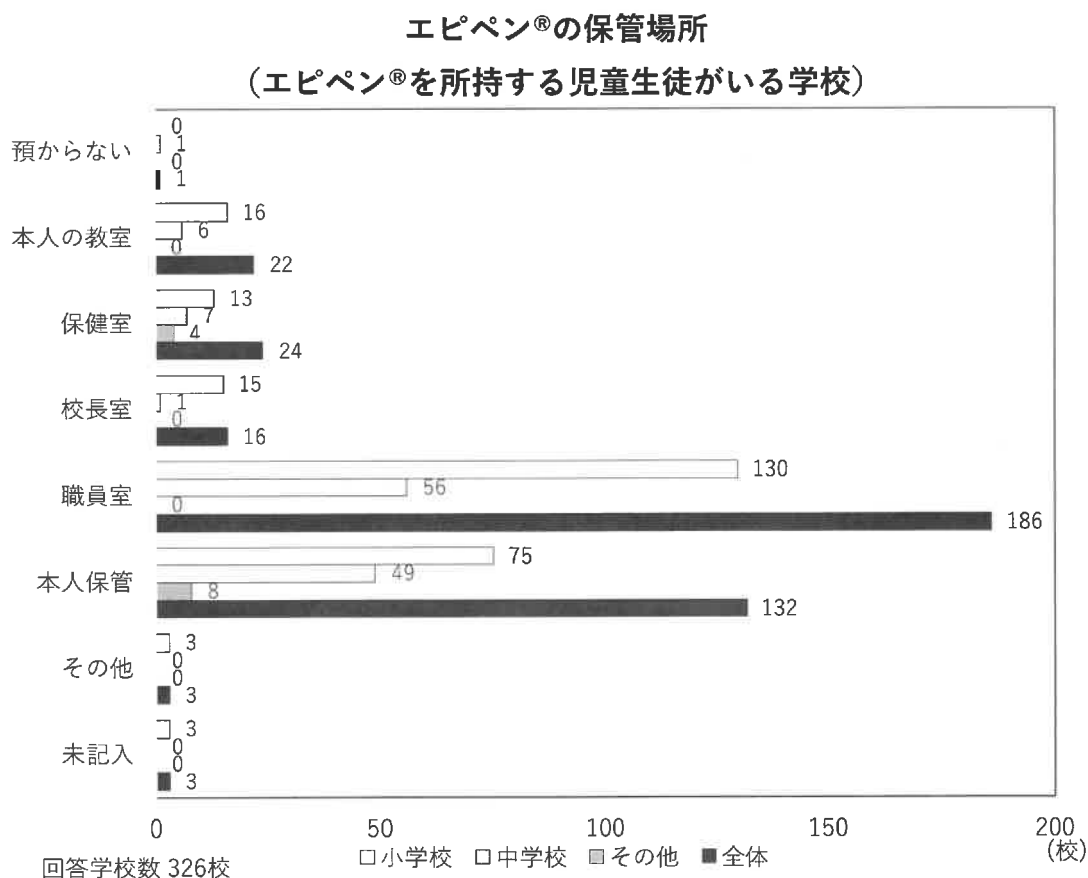
# 第Ⅲ章

## アナフィラキシーに対する調査項目

### 1 エピペン®の保管場所

エピペンの保管場所については、現在エピペンをもつ児童生徒がいる学校においては、職員室がもっとも多く、次いで本人保管（ランドセルの中など）が多く、他に教室での保管や保健室、校長室での保管もあった（図3）。中学校では小学校に比べて本人保管の割合が多くみられた。

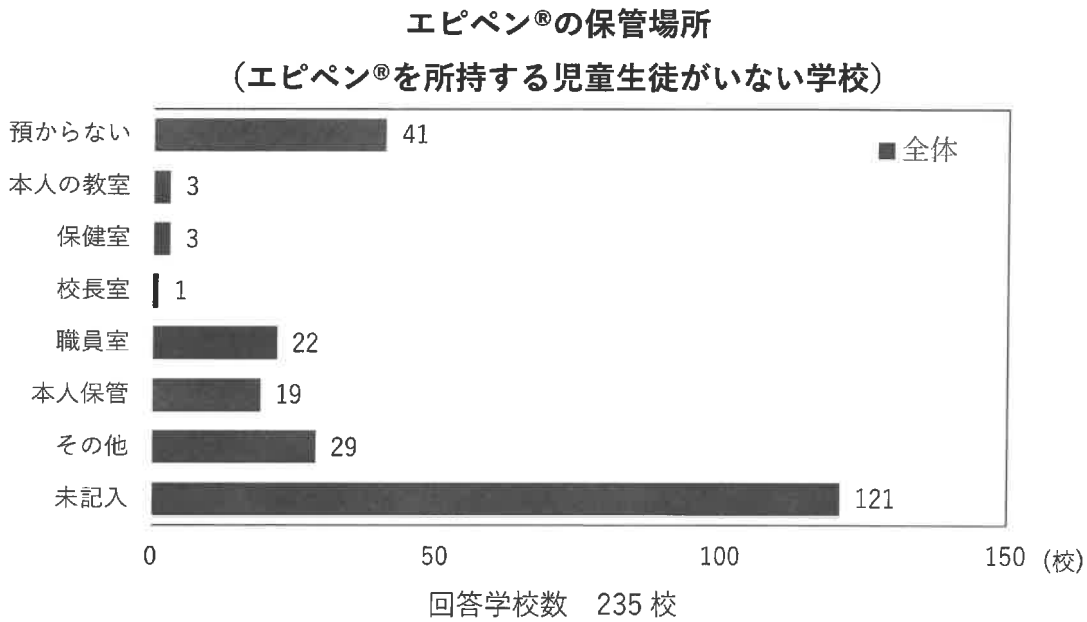
図3 エピペン®の保管場所（エピペン®を所持する児童生徒がいる学校）



しかし、現在エピペンをもつ児童生徒がいない学校のアンケート結果では未記入や預からないと記載しているものも多く、一部に保管場所が決まっていない学校もある可能性が考えられた（図4）。



図4 エピペン®の保管場所（エピペン®を所持する児童生徒がない学校）



## 2 アレルギー研修会について

アレルギー研修会については、96.8%の学校で実施されており、AED(自動体外式除細動器)の研修会と同等に多く開催されていた(図5)。また、研修会の開催頻度としては、年1回がもっとも多く、一部には年2回、3回実施されている学校もあった(図6)。また、研修内容としては、実技研修を取り入れているところが93.2%と最も多く、ロールプレイも46.5%で行われていた。専門家による講義も12.4%で実施されていた(図6)。

図5 アレルギー研修会とAED研修会の開催

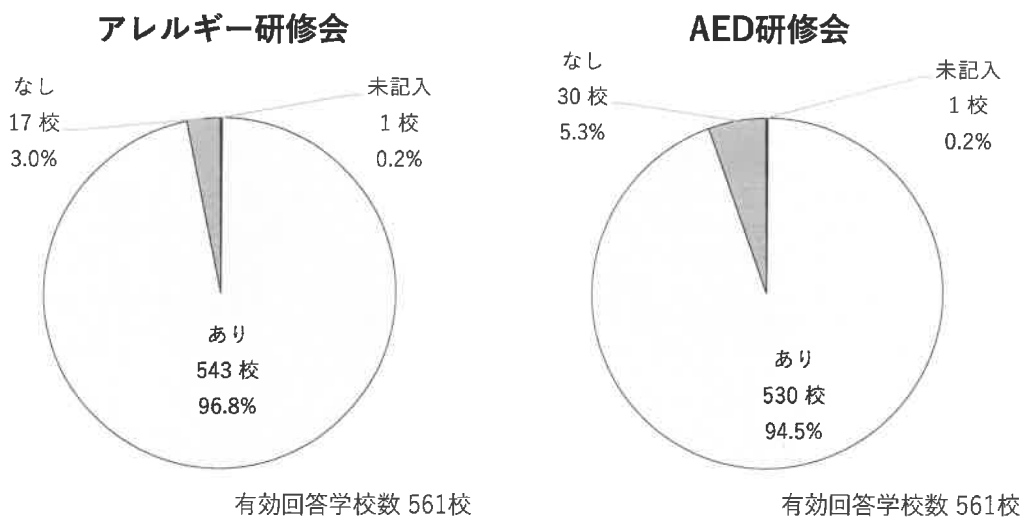
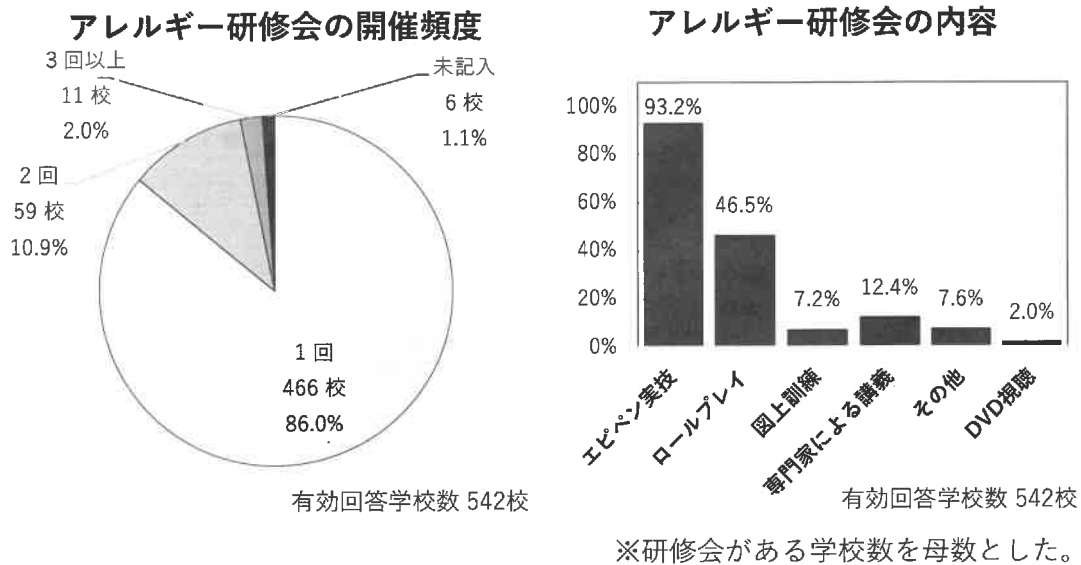


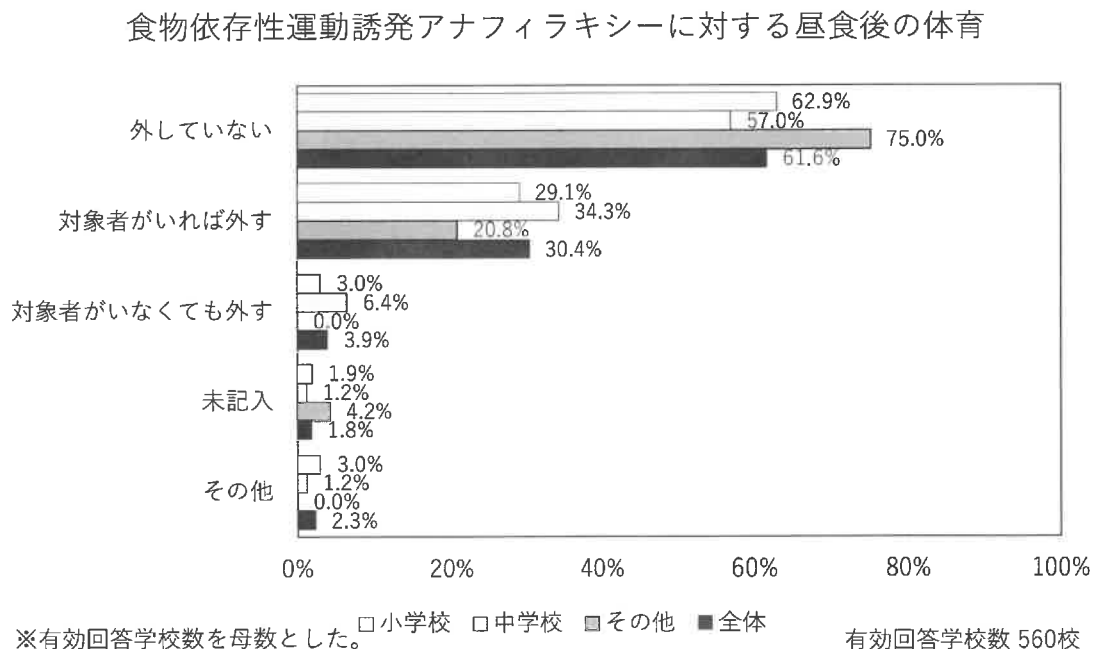
図6 アレルギー研修会の開催頻度とその研修の内容



### 3 食物依存性運動誘発アナフィラキシーへの対応

食物依存性運動誘発アナフィラキシーは、その食物を食べても通常はアレルギー反応がおこらないものの、一定の条件がそろった場合に原因食品を食べて運動するとアナフィラキシーの症状が誘発される。対象者がいれば外す学校が 30.4%で、一部には対象者がいなくても外すことになっている学校もあった（図7）。

図7 食物依存性運動誘発アナフィラキシーに対する昼食後の体育



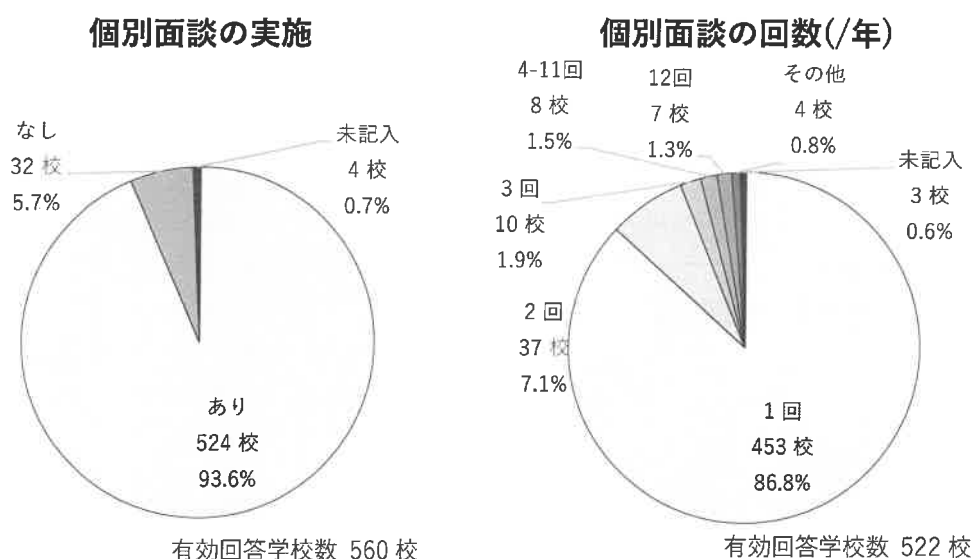
## 第IV章

# 食物アレルギーに対する調査項目

### 1 食物アレルギー児の保護者との個別面談とその回数

食物アレルギーを認める児の保護者の個別面談については、93.6%の学校で実施されていた（図8）。また、個別面談の実施回数はまちまちであったが、年1回開催している学校が多かった。一部には毎月面談を行っている学校もあった。

図8 個別面談の実施とその回数



### 2 食物アレルギー対応委員会の開催

食物アレルギーを対応委員会は「面談調書その他の資料に基づき、対象となる児童生徒ごとの対応を決定する」とされている。この委員会の開催状況については、9割以上の学校で実施されていたが、一部には実施されていない学校もあった（図9）。開催頻度は年1回が60.4%と最も多く、2回、3回の学校はそれぞれ29.0%、7.1%であった。また、書類の新規提出や訂正があった場合について、食物アレルギー対応委員会を追加開催する学校は52.7%であったが、追加開催しないと答えている学校もあった。

さらに食物アレルギーの対応委員会のメンバーについて複数回答可として回答を依頼したところ、管理職、養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員、学級担任、学校医などの選択肢があったが、ほとんどの学校で養護教諭(99.8%)と管理職(98.6%)が食物アレルギー対応委員会に参加しており、さらに栄養教諭・学校栄養職員、学級担任はそれぞれ 75.7%と 70.8%参加していた。また、学校医の参加は 36.6%であった(図10)。

図9 食物アレルギー対応委員会の開催

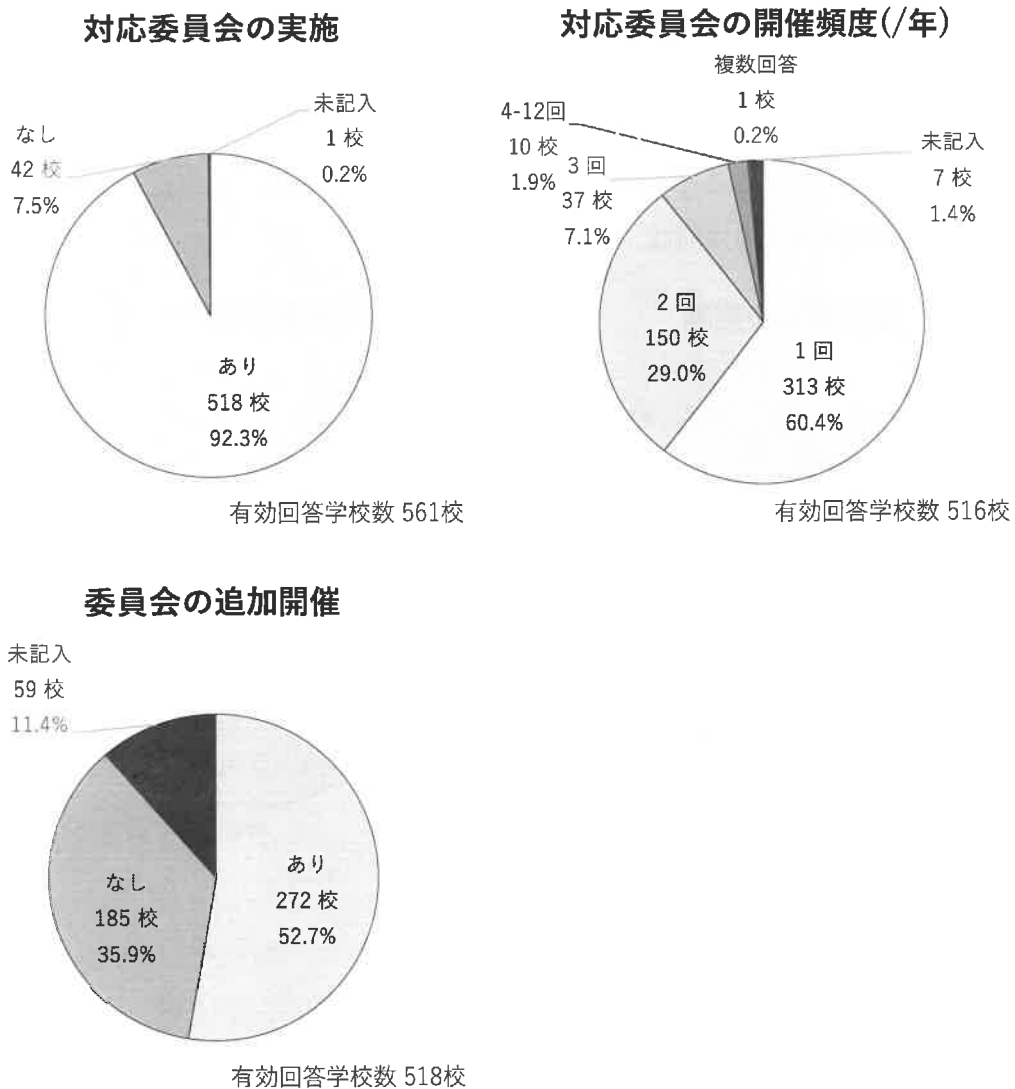
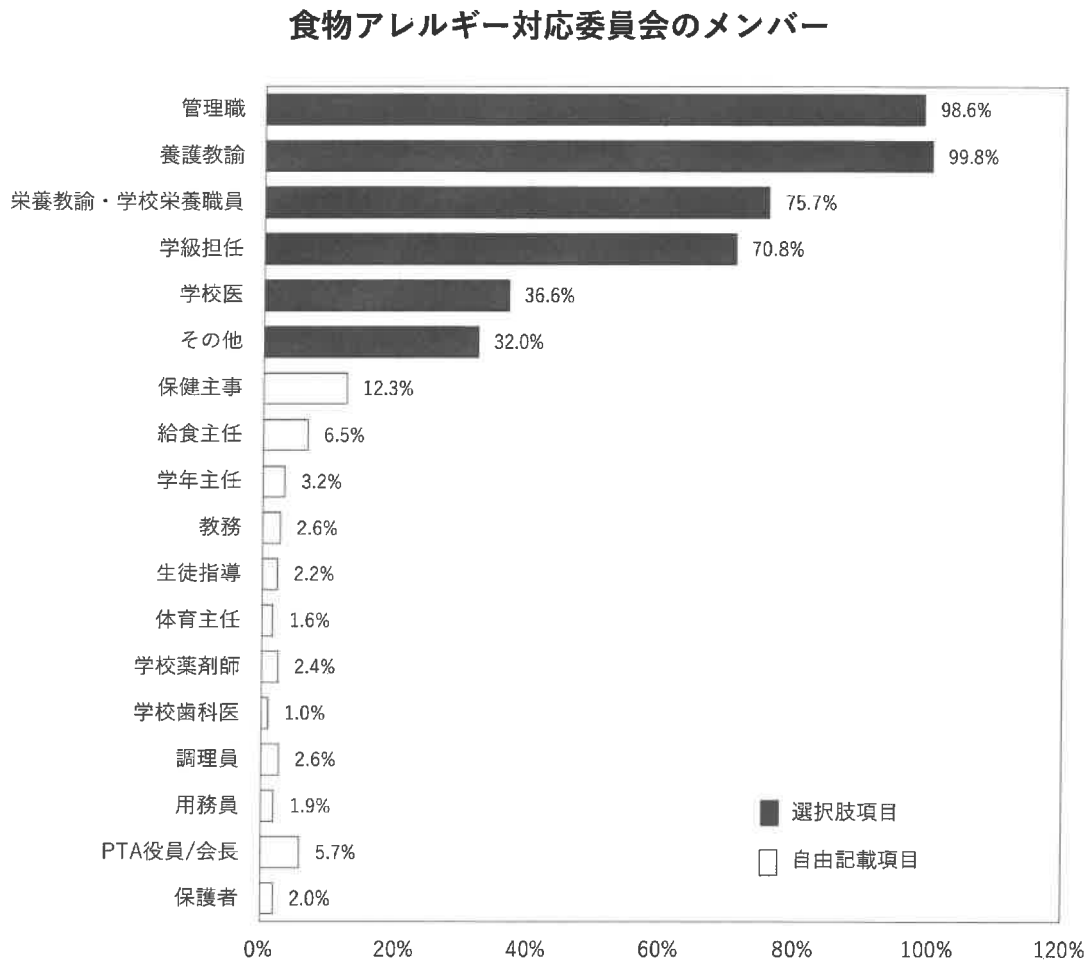


図10 食物アレルギー対応委員会のメンバー



※委員会の開催がある学校で有効回答が得られた学校数を母数とした。

### 3 給食の方式と給食対応のレベル

給食の提供はほとんどがセンター方式をとっていたが、岐阜市など一部においては単独校調理方式が採用されていた。給食の対応については、「学校のアレルギー疾患における取り組みガイドライン」（公益法人財団学校保健会）により表6の通りの対応が定められている。この項目は、食物アレルギーの原因食品の種類によって一部弁当や完全弁当で対応していることなどが考えられたため、設問は複数回答可とした。給食の対応レベルにおいて詳細な献立表対応の学校が53.8%を占めていたが、除去食、代替食が提供できる学校がそれぞれ49.8%と36.0%であり、一部弁当の対応をしている学校も35.5%あった（図11）。

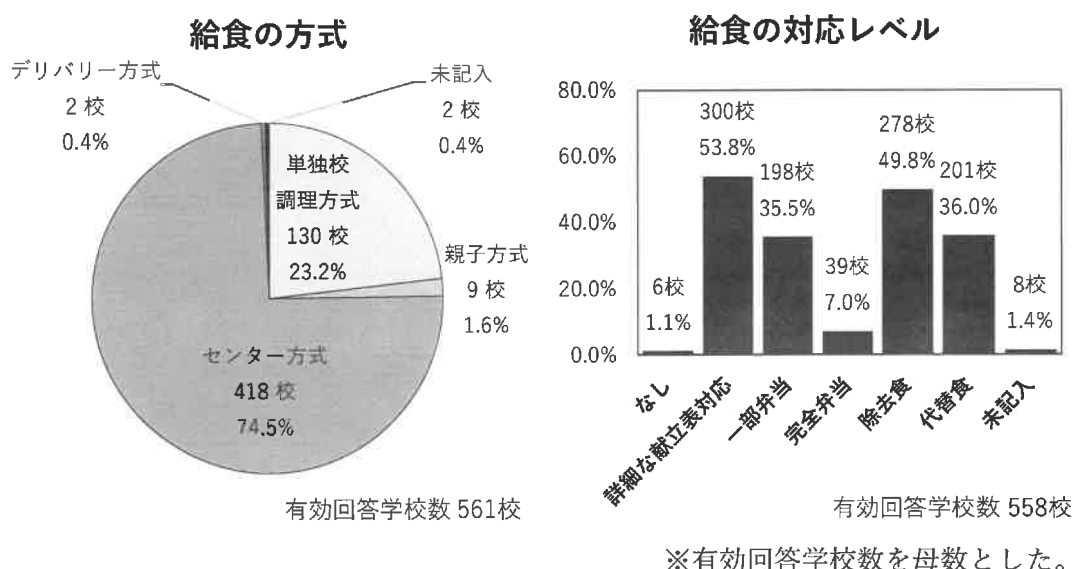
表6 学校のアレルギー疾患における取り組みガイドラインにおける給食の対応レベル

段階	対応方法	
レベル1	詳細な献立表対応	献立の詳細な内容を保護者と学級担任に提示し、児童生徒が各自で除去対応を行う
レベル2	一部弁当対応	詳細な献立表をもとに保護者と連携し、どうしても対応が困難な献立において一部弁当を持参する
レベル3	除去食対応	申請のあった原因食品を除いた給食を提供する
レベル4	代替食対応	申請のあった原因食品を取り除く、それに代わる食材を補い、栄養価を確保した学校給食を提供する

（注：レベル3と4がアレルギー対応食といわれている）

「学校のアレルギー疾患における取り組みガイドライン」（公益法人財団学校保健会）より

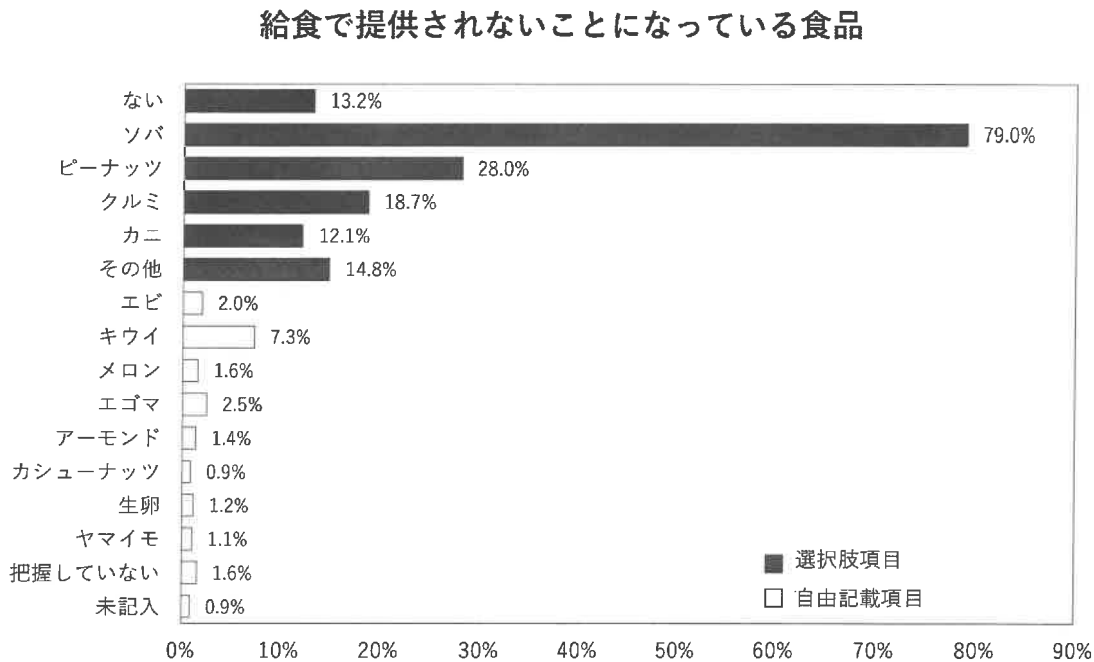
図11 給食の方式と給食の対応レベル



## 4 給食で提供されないことになっている食品

給食で提供されないことになっている食品があるかどうかの調査では、ソバがもっとも多く、他にピーナッツ、クルミ、カニなどが挙げられていた（図12）。養護教諭による質問であり、栄養教諭に対する調査でないことに留意する必要がある。自由記載欄の記載にはばらつきもみられたが、キウイが比較的多くの学校で提供されない食品として挙げられていた。自由記載欄に生卵を挙げている学校もあったが、衛生上、給食では食品を十分に加熱して提供される事が多く、アレルギー対応とは別である可能性もあった。

図12 給食で提供されないことになっている食品

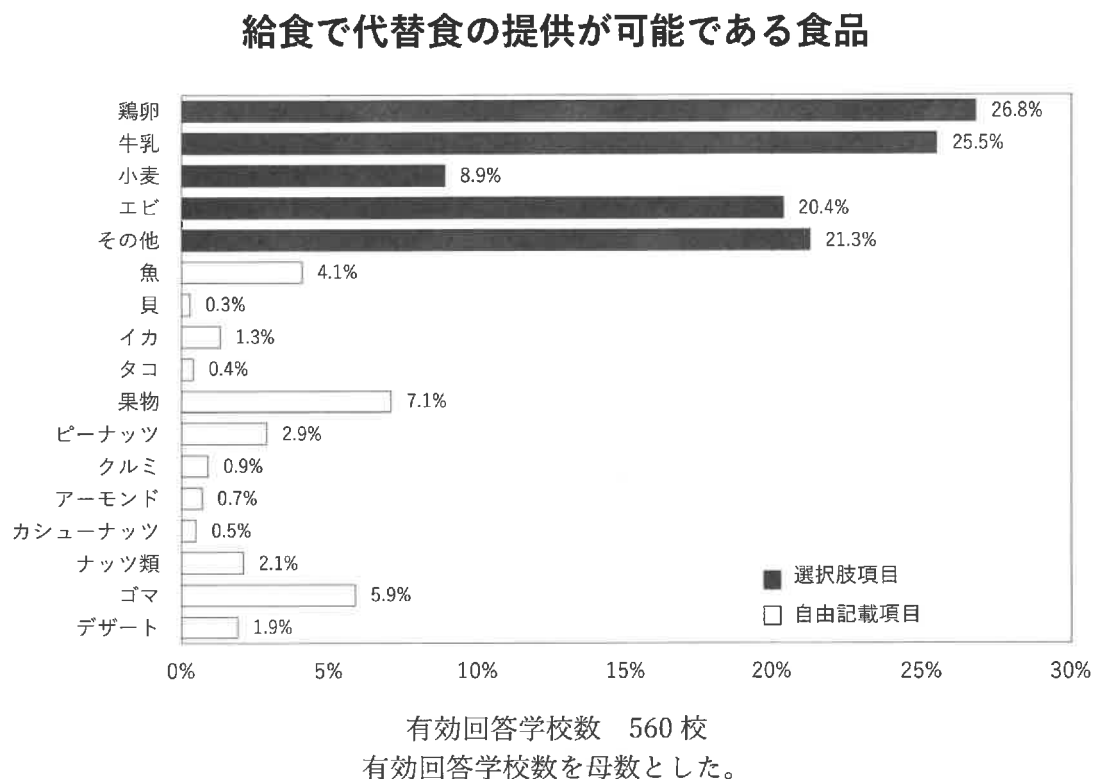


回答学校数 561 校  
有効回答学校数を母数とした。

## 5 給食で代替食の提供が可能である食品

学校給食で代替食の提供が可能で学校が全体の 36.0%（表11）であったが、その中で鶏卵、牛乳についてはそれぞれ 26.8%、25.5%の学校で代替食の提供が可能であると回答されていた（図13）。また、エビについても 20.4%の学校で代替食の提供が可能であった。一方小麦について代替食の提供が可能で学校は 1 割に満たない 8.9%という結果であった。自由記載による回答を求めたところ、果物や魚、ピーナッツ等が挙げられていた。表6に示した通り、代替食は「原因食品を取り除き、それに代わる食材を補い、栄養価を確保した学校給食を提供する」ことではあるが、この選択肢について、一部は除去食（「申請のあった原因食品を除いた給食を提供する」）事について回答されている可能性は排除できなかった。

図13 給食で代替食の提供が可能である食品

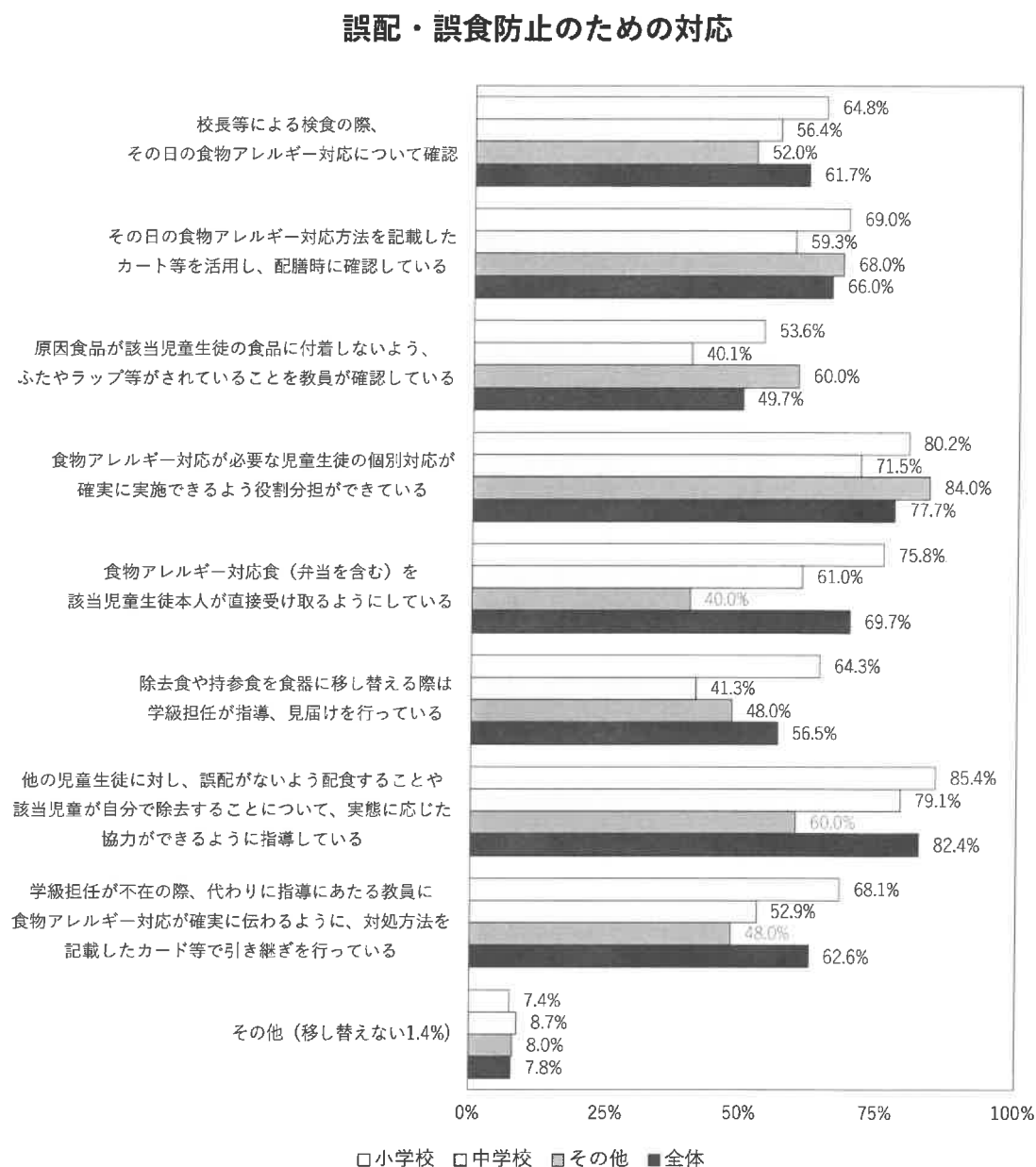


## 6 誤配・誤食防止のための対応

誤配・誤食を防止するための対応が小中学校においてどのように行われているかについて調査した(図14)。特に小学校において対策ができている学校が多く、中学校の方がその割合は少なかった。アレルギー疾患をもつ患者さんの数が小学校の方が多いことが影響していると考えられた。また、個別対応のための役割分担については、各学校で十分に対応されていた。



図14 誤配・誤食防止のための対応



回答学校数 561校

※有効回答学校数を母数とした。

## 第V章

# その他のアレルギー疾患等に対する調査項目

## 1 食物アレルギー・気管支喘息で運動制限がある児童生徒

食物アレルギー児のうち運動制限を指示されている割合は全体で1.7%であった。食物アレルギー児においてはアレルギーを起こす原因の食品（アレルゲン）を摂取した後は安静が必要である。一方、その食品を摂取して運動しても症状が誘発されない状態となった場合に除去を解除するのが一般的である。運動制限を指示されている理由についての調査は行っていないが、食物アレルギーないし食物依存性運動誘発アナフィラキシーにおいて原因食物が十分に特定できていない例が含まれている可能性も考えられたが詳細は不明である。

気管支喘息においては、運動制限がある生徒の割合は小中学校をあわせて10.5%にみられ、中学校の方が多かった。管理表の提出は一定の重症度以上の患者さんに限られている可能性も有り、気管支喘息として管理表が提出されているうちの割合である事に留意が必要である。我が国の小児気管支喘息の治療・管理ガイドラインにおいては、適切な管理により日常生活の制限がない状態を目標としており、運動時に何らかの症状が誘発される状態はコントロール不良で有る可能性が考えられ、適切に管理されていないかまたは管理が困難である症例が一定数含まれていることが示唆された。

表7 食物アレルギー・気管支ぜん息で管理表の提出されている中で運動制限がある児

	食物アレルギー		気管支ぜん息	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合
小学生	38	1.2%	32	7.8%
中学生	42	2.9%	25	18.9%
全体	80	1.7%	57	10.5%

※割合はそれぞれの疾患で管理表等提出している人数を母数とした。

## 2 環境衛生管理に関する調査項目

ほとんどの学校でダニないしダニアレルゲンの測定がおこなわれていた。測定回数は年1回の学校がほとんどであった。測定は1～3か所の測定を行っている学校が多かった。6か所以上測定している学校もあった。測定場所としては、選択肢として示されていた保健室の記載は多く、普通教室の測定は少なかった。また、自由記載の項目では、パソコン室、音楽室、図書室等が多かった。じゅうたんが敷いてある特別教室と記載されている学校もあり、特別教室の中には音楽室やパソコン室などが含まれている可能性があった。

図15 普通教室の床

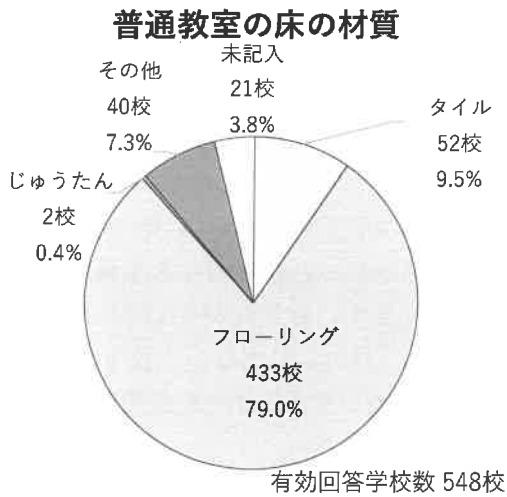
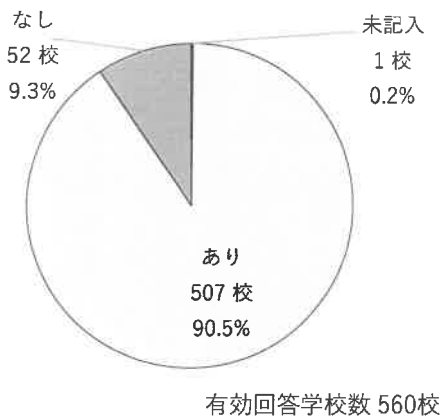
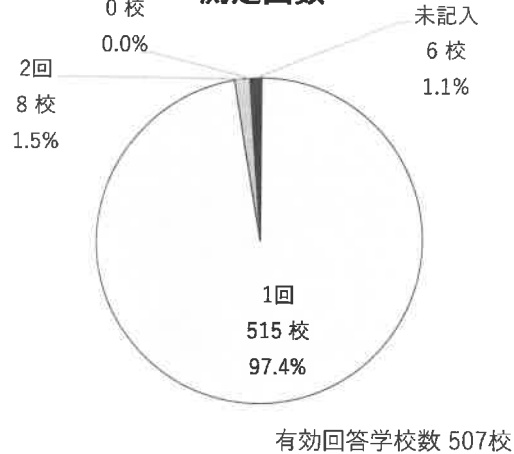


図16 ダニ・ダニアレルゲンの測定

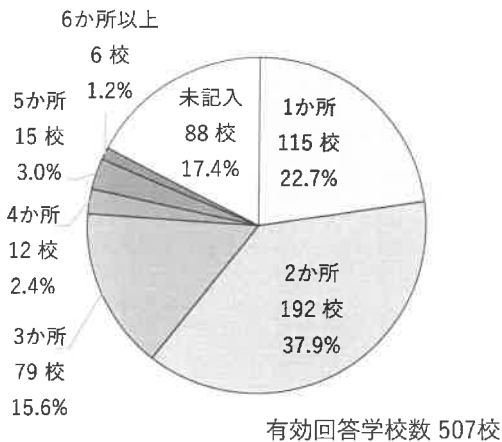
### ダニ・ダニアレルゲンの測定



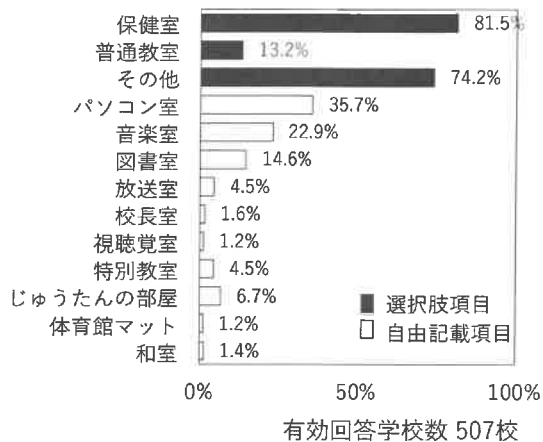
### 測定回数



### ダニアレルゲンの測定箇所



### 測定場所



※測定がある学校数を母数とした。

### 3 アトピー性皮膚炎に対する配慮について

アトピー性皮膚炎に対しての夏期シャワー浴が対応可能か、また、軟膏塗布の介助についても対応可能かについて確認を行った。夏期シャワー浴の指示が出ている児童生徒は少ない可能性も有るが、現在も対応している学校は5.5%であった。要望があれば対応できると回答している学校も62.8%であった。一方約29.5%の学校では対応しないとの回答であった。その理由としては、設備がない学校が81.8%にのぼった。人員不足を挙げている学校も4.7%あった。設備についてはプールのない学校も増えていることも一因である可能性が考えられた。また、軟膏塗布の介助については、現在も対応している学校が11.4%、要望があれば対応できると回答している学校が76.2%であった。一方対応できない学校も10.4%あった。その理由には人員不足や誤投薬の恐れの記事があった。また、自由記載項目に本人が塗布できるからとの回答も3割程度あった。

図17 夏期のシャワー浴の対応

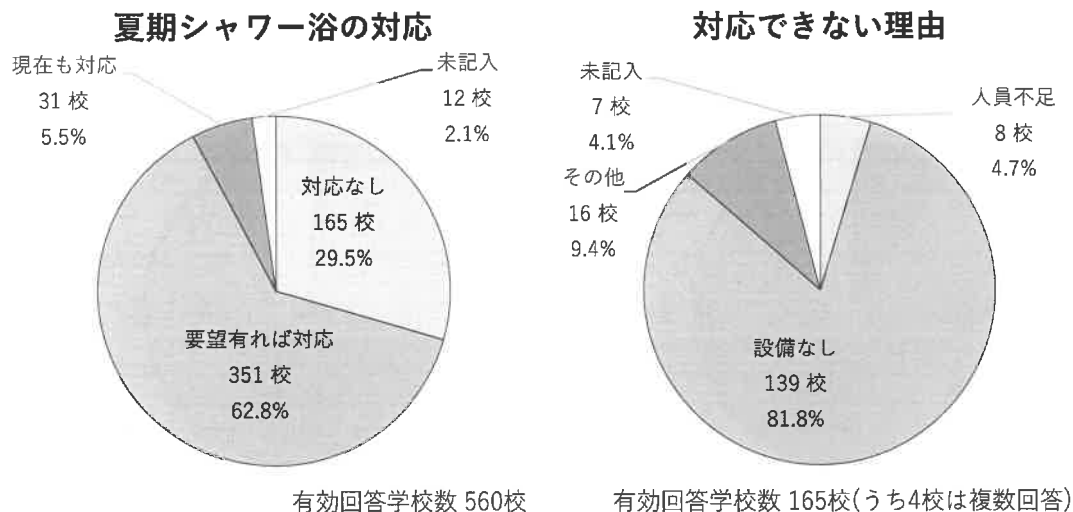
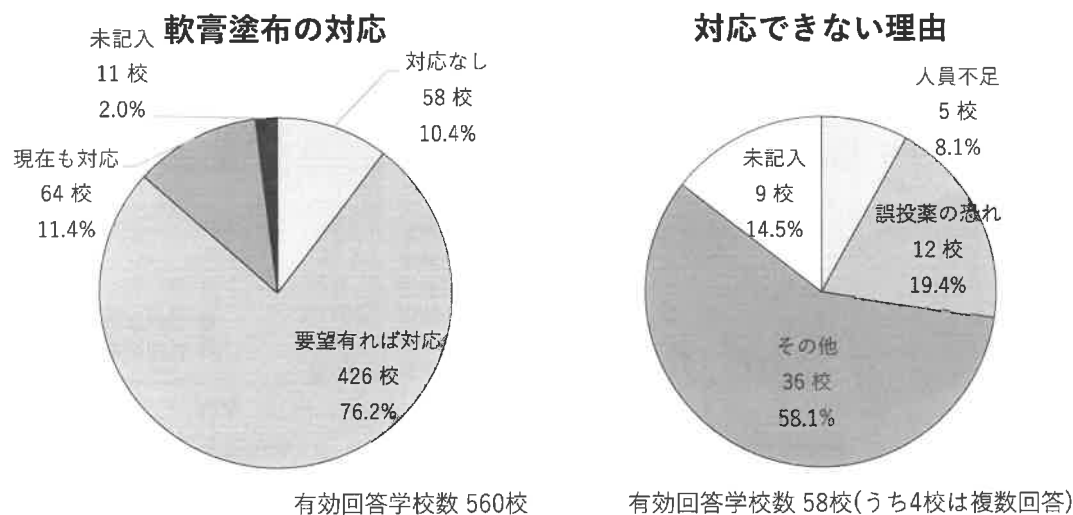


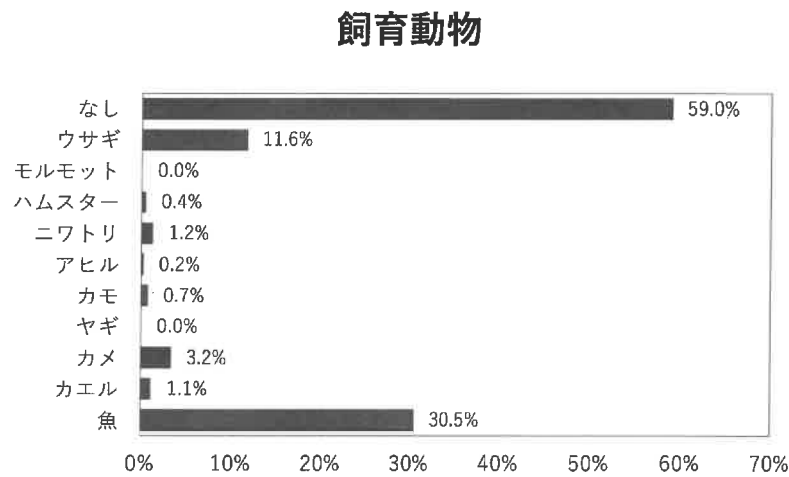
図18 軟膏塗布の対応



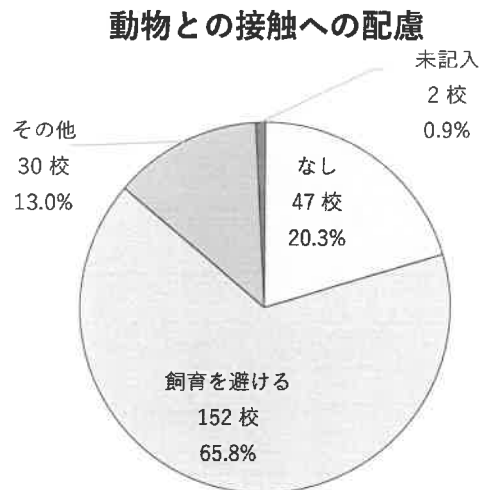
#### 4 学校での動物の飼育と配慮が必要な児童生徒への対応

学校での動物との飼育を調査した。飼育しない方針の学校が 59.0%を占めた。飼育している学校でも魚やカメなどを飼育している学校もあった。有毛・羽動物としてはウサギがもっとも多かったが、11.6%であった。その他にニワトリ、カモなどがあったがいずれも少数であった。動物との接触に配慮が必要な児童生徒に対応している学校において、対応していないと回答されている学校も 20.3%あったが、飼育を避けたり校外活動での配慮をしたりしている学校が多く見られた。

図19 学校での動物の飼育と配慮が必要な児童生徒への対応



有効回答学校 560 校  
 ※全学校数を母数とした。



有効回答学校数 229 校(うち 2 校が複数回答)

## 第VI章

# 養護教諭の業務とアレルギー疾患への認識

## 1 食物アレルギーに対する学校現場での実際の対応数

養護教諭の学校での児童生徒に対する対応の中に占めるアレルギーの位置づけを確認した。集計されていない学校も多かったと思われる有効回答は少なかった（表8）。すべての項目に有効な回答をされていた学校の中で、食物アレルギーの症状で内服や保健室での経過観察を行った数は合計で444件であった。そのうち、事前に申告がなく、新規発症の食物アレルギーの症状で対応を要した児童生徒の数は12.2%であった。また、食物アレルギーまたは食物アレルギーによるアナフィラキシーで救急搬送を要した児童生徒、さらにエピペン®の投与が必要であった児童生徒もそれぞれ23人、6人であった。特に、食物アレルギーまたは食物アレルギーによるアナフィラキシーで救急搬送を要した児童生徒のうち、事前に申告のない食物アレルギーの症状で救急搬送を行ったのは小学生で38.5%、中学生でも22.2%であった。

表8 有効な回答のあった学校のうち保健室などでのアレルギー関連の対応数

		小学生	中学生	全体
アレルギー対応を要した学校数	学校数(校)	92	36	128
	割合(%)*1	39.8%	31.3%	37.0%
食物アレルギー症状で内服・保健室での経過観察など対応をした児	人数(人)	296	131	427
事前に申告のない新規発症の食物アレルギーの症状で対応をした児	人数(人)	37	15	52
	割合(%)*2	12.5%	11.5%	12.2%
食物アレルギーまたは食物アレルギーによるアナフィラキシーで救急搬送をした児	人数(人)	13	9	22
	人数(人)	5	2	7
事前に申告のない新規発症の食物アレルギーの症状で救急搬送をした児	割合(%)*3	38.5%	22.2%	31.8%
	人数(人)	4	2	6
学校活動中のエピペン投与	人数(人)	4	2	6
アレルギー疾患以外の病気で医療機関の受診を要した児	人数(人)	829	495	1324
	人数(人)	2244	1114	3358
外傷で医療機関の受診を要した児	人数(人)	2244	1114	3358
	人数(人)	2244	1114	3358
有効回答学校	学校数(校)	231	115	346
	割合(%)*3	59.4%	58.4%	59.0%

※1 有効回答が得られた全学校数を母数とした。

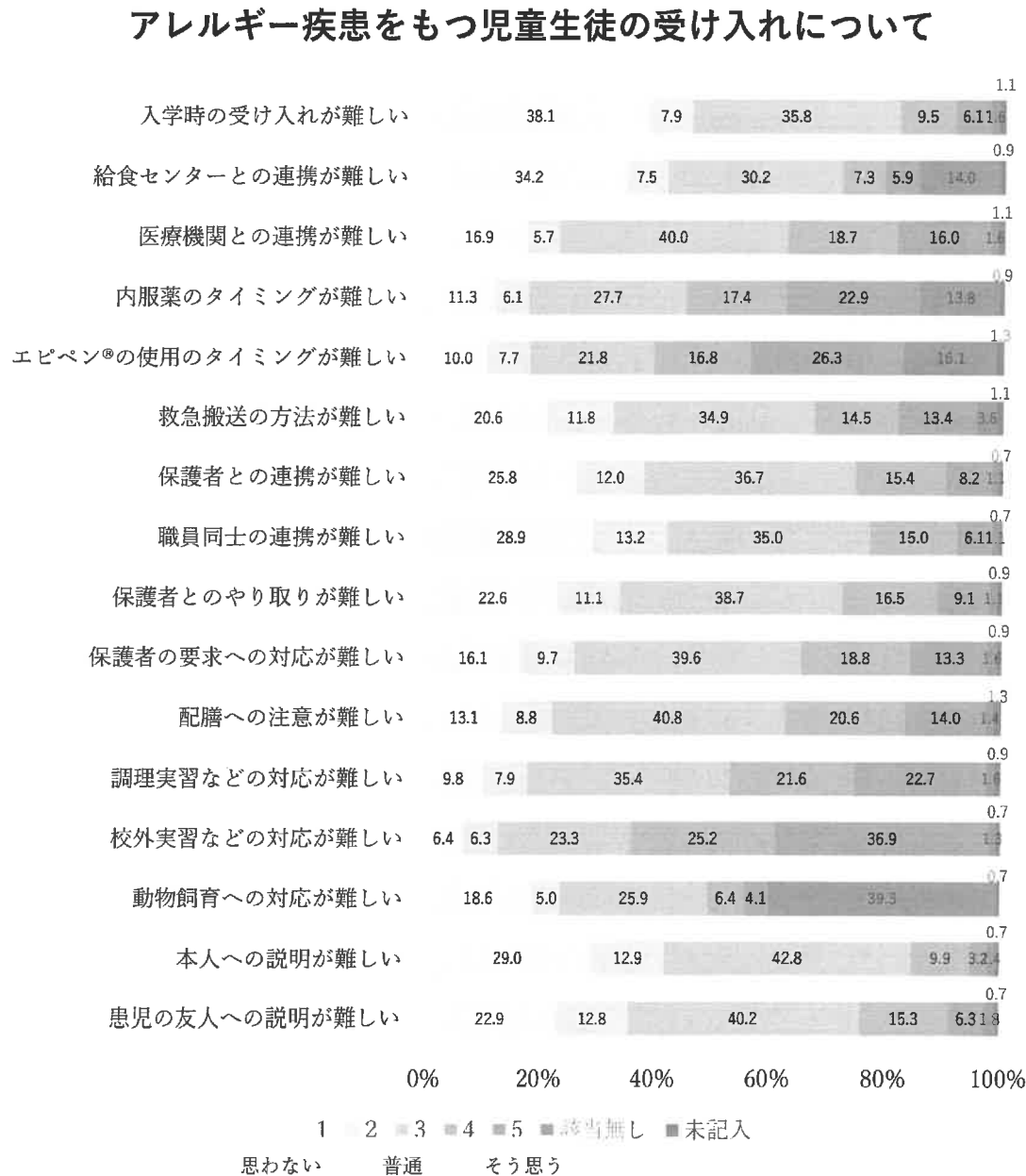
※2 食物アレルギー症状で内服・保健室での経過観察など対応した人数を母数とした。

※3 アナフィラキシーで救急搬送をした人数を母数とした。

## 2 アレルギー疾患をもつ児童生徒の受け入れについての認識

アレルギー疾患をもつ児童生徒の受け入れについての養護教諭の認識を確認した。校外学習や調理実習への対応の難しさや内服薬、エピペン®の使用のタイミングの難しさ、医療機関との連携への難しさなどが比較的高い割合であった（図20）。

図20 アレルギー疾患をもつ児童生徒の受け入れについて



## 第VII章

### 学区別のデータのまとめ

※特に記載がない場合、上段/下段=学校数(校)もしくは人数(人)/割合(%)

#### I. 調査の概要

表 I - 1 地区別学校数

	小学校	中学校	その他	全体(人)
岐阜	105	47	8	160
西濃	75	28	5	108
美濃	45	19	3	67
加茂	41	21	1	63
東濃	61	37	2	100
飛騨	37	20	6	63
合計	1364	172	25	561

表 I - 2 地区別児童生徒数

	小学生(人)	中学生(人)	全体(人)
岐阜	42,778	21,241	64,019
西濃	19,429	10,432	29,861
美濃	7,828	4,067	11,895
加茂	12,384	6,070	18,454
東濃	16,778	8,332	25,110
飛騨	7,347	3,819	11,166
合計	106,544	53,961	160,505



## II. アレルギー疾患を認める児童生徒数の概要

## II-1) 疾患の総数

表II-1-1 小学生

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨
アレルギー 総数	学校数	9039	6990	1781	4771	5186	2351
	割合	23.9%	36.2%	28.1%	41.3%	38.1%	32.2%
	有効回答率	(90.3%)	(98.8%)	(91.7%)	(92.9%)	(85.7%)	(97.7%)
食物 アレルギー	学校数	2268	1407	499	1150	1198	415
	割合	5.3%	7.2%	6.4%	9.5%	7.3%	5.6%
	有効回答率	(99.1%)	(100.0%)	(100.0%)	(97.6%)	(96.8%)	(100.0%)
アナフィ ラキシー	学校数	331	142	42	94	128	66
	割合	0.8%	0.7%	0.5%	0.8%	0.8%	0.9%
	有効回答率	(99.1%)	(98.8%)	(97.9%)	(97.6%)	(95.2%)	(100.0%)
アトピー性 皮膚炎	学校数	1247	1027	454	806	1112	377
	割合	3.1%	5.4%	5.9%	6.6%	7.2%	5.4%
	有効回答率	(94.7%)	(97.5%)	(97.9%)	(97.6%)	(93.7%)	(97.7%)
気管支 ぜん息	学校数	1183	844	223	352	645	204
	割合	2.9%	4.4%	2.9%	2.9%	4.4%	2.9%
	有効回答率	(94.7%)	(98.8%)	(95.8%)	(97.6%)	(92.1%)	(95.3%)
アレルギー性 鼻炎	学校数	4189	3252	1083	3172	3344	1068
	割合	10.9%	17.6%	14.6%	26.1%	24.0%	15.2%
	有効回答率	(89.4%)	(95.0%)	(93.8%)	(97.6%)	(87.3%)	(97.7%)
アレルギー性 結膜炎	学校数	2058	1511	108	514	813	175
	割合	5.4%	8.1%	1.5%	4.2%	5.8%	2.5%
	有効回答率	(88.5%)	(95.0%)	(85.4%)	(97.6%)	(88.9%)	(97.7%)

※それぞれの地区、疾患で有効回答が得られた学校の児童生徒数を母数とした。

表II-1-2 中学生

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨
アレルギー 総数	学校数	5952	3396	1430	3010	3579	1002
	割合	30.2%	36.1%	35.2%	49.6%	44.9%	31.8%
	有効回答率	(94.5%)	(90.9%)	(100.0%)	(100.0%)	(94.9%)	(92.3%)
食物 アレルギー	学校数	1330	844	313	624	645	177
	割合	6.4%	8.2%	7.7%	10.3%	7.7%	4.6%
	有効回答率	(98.2%)	(97.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)
アナフィ ラキシー	学校数	121	49	29	23	68	21
	割合	0.6%	0.5%	0.7%	0.4%	0.8%	0.6%
	有効回答率	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(96.2%)
アトピー性 皮膚炎	学校数	750	454	213	380	575	167
	割合	3.8%	4.6%	5.2%	6.5%	7.1%	4.4%
	有効回答率	(94.5%)	(93.9%)	(100.0%)	(95.5%)	(94.9%)	(96.2%)
気管支 ぜん息	学校数	487	263	80	164	288	66
	割合	2.5%	2.7%	2.0%	2.8%	3.7%	1.8%
	有効回答率	(94.5%)	(93.9%)	(100.0%)	(95.5%)	(94.9%)	(96.2%)
アレルギー性 鼻炎	学校数	3054	1836	934	2040	2529	741
	割合	15.3%	18.5%	23.4%	35.1%	30.9%	19.4%
	有効回答率	(94.5%)	(93.9%)	(95.5%)	(95.5%)	(97.4%)	(100.0%)
アレルギー性 結膜炎	学校数	1403	793	79	312	665	77
	割合	7.1%	8.0%	2.0%	5.4%	8.1%	2.0%
	有効回答率	(94.5%)	(93.9%)	(95.5%)	(95.5%)	(97.4%)	(96.2%)

※それぞれの地区、疾患で有効回答が得られた学校の児童生徒数を母数とした。

表II-1-3 全体

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨
アレルギー 総数	学校数	14991	10386	3211	7781	8765	3353
	割合	26.1%	36.2%	30.8%	44.1%	40.6%	32.1%
	有効回答率	(91.7%)	(96.5%)	(94.3%)	(95.3%)	(89.2%)	(95.7%)
食物 アレルギー	学校数	3598	2251	812	1774	1843	592
	割合	5.7%	7.6%	6.8%	9.7%	7.5%	5.3%
	有効回答率	(98.8%)	(99.1%)	(100.0%)	(98.4%)	(98.0%)	(100.0%)
アナフィ ラキシー	学校数	452	191	71	117	196	87
	割合	0.7%	0.6%	0.6%	0.6%	0.8%	0.8%
	有効回答率	(99.4%)	(99.1%)	(98.6%)	(98.4%)	(97.1%)	(98.6%)
アトピー性 皮膚炎	学校数	1997	1481	667	1186	1687	544
	割合	3.3%	5.1%	5.7%	6.6%	7.1%	5.0%
	有効回答率	(94.6%)	(96.5%)	(98.6%)	(96.9%)	(94.1%)	(97.1%)
気管支 ぜん息	学校数	1670	1107	303	516	933	270
	割合	2.8%	3.8%	2.6%	2.9%	4.1%	2.5%
	有効回答率	(94.6%)	(97.3%)	(97.1%)	(96.9%)	(93.1%)	(95.7%)
アレルギー性 鼻炎	学校数	7243	5088	2017	5212	5873	1809
	割合	12.4%	18.0%	17.7%	29.0%	26.5%	16.7%
	有効回答率	(91.1%)	(94.7%)	(94.3%)	(96.9%)	(91.2%)	(98.6%)
アレルギー性 結膜炎	学校数	3461	2304	187	826	1478	252
	割合	6.0%	8.0%	1.7%	4.6%	6.6%	2.3%
	有効回答率	(90.5%)	(94.7%)	(88.6%)	(96.9%)	(92.2%)	(97.1%)

※それぞれの地区、疾患で有効回答が得られた学校の児童生徒数を母数とした。

II-2) 学校生活管理指導表の提出

表II-2-1 岐阜

		アレルギー 総数	食物ア レルギー	アナフィ ラキシー	アトピー 性皮膚炎	気管支 ぜん息	アレルギー 性鼻炎	アレルギー 性結膜炎
管理	人数(人)	4001	2296	389	506	504	1375	800
必要数 <sup>※1</sup>	(%)	7.6%	3.7%	0.6%	0.9%	0.9%	2.6%	1.5%
管理表	人数(人)	2000	1882	374	102	97	242	205
提出数 <sup>※1</sup>	(%)	3.8%	3.0%	0.6%	0.2%	0.2%	0.5%	0.4%
管理表活用率 <sup>※2</sup>	(%)	50.0%	82.0%	96.1%	20.2%	19.2%	17.6%	25.6%
有効回答	校数(校)	140	161	158	144	143	139	138
	(%)	83.3%	95.8%	94.0%	85.7%	85.1%	82.7%	82.1%

※1 有効回答が得られた学校の全児童生徒数を母数とした。

※2 管理が必要な児童生徒数を母数とした。

表II-2-2 西濃

		アレルギー ー総数	食物アレ ルギー	アナフィ ラキシー	アトピー 性皮膚炎	気管支 ぜん息	アレルギー ー性鼻炎	アレルギー 性結膜炎
管理	人数(人)	3256	1326	164	501	396	1244	605
必要数	(%)	12.3%	4.7%	0.6%	1.9%	1.5%	4.9%	2.4%
管理表	人数(人)	1053	760	162	153	166	276	196
提出数 <sup>※1</sup>	(%)	4.0%	2.7%	0.6%	0.6%	0.6%	1.1%	0.8%
管理表活用率 <sup>※2</sup>	(%)	32.3%	57.3%	98.8%	30.5%	41.9%	22.2%	32.4%
有効回答	校数(校)	100	108	105	102	102	99	99
	(%)	88.5%	95.6%	92.9%	90.3%	90.3%	87.6%	87.6%

※1 有効回答が得られた学校の全児童生徒数を母数とした。

※2 管理が必要な児童生徒数を母数とした。

表II-2-3 美濃

		アレルギー ー総数	食物アレ ルギー	アナフィ ラキシー	アトピー 性皮膚炎	気管支 ぜん息	アレルギー ー性鼻炎	アレルギー 性結膜炎
管理	人数(人)	740	467	66	123	55	236	71
必要数	(%)	7.2%	4.0%	0.6%	1.1%	0.5%	2.2%	0.7%
管理表	人数(人)	424	405	63	46	31	89	53
提出数 <sup>※1</sup>	(%)	4.1%	3.4%	0.5%	0.4%	0.3%	0.8%	0.5%
管理表活用率 <sup>※2</sup>	(%)	57.3%	86.7%	95.5%	37.4%	56.4%	37.7%	74.6%
有効回答	校数(校)	64	68	67	65	65	63	59
	(%)	91.4%	97.1%	95.7%	92.9%	92.9%	90.0%	84.3%

※1 有効回答が得られた学校の全児童生徒数を母数とした。

※2 管理が必要な児童生徒数を母数とした。

表II-2-4 加茂

		アレルギー ー総数	食物アレ ルギー	アナフィ ラキシー	アトピー 性皮膚炎	気管支 ぜん息	アレルギー ー性鼻炎	アレルギー 性結膜炎
管理	人数(人)	1736	879	98	236	169	960	207
必要数	(%)	10.4%	4.9%	0.6%	1.4%	1.0%	5.6%	1.2%
管理表	人数(人)	449	415	77	79	43	121	64
提出数 <sup>※1</sup>	(%)	2.7%	2.3%	0.4%	0.5%	0.3%	0.7%	0.4%
管理表活用率 <sup>※2</sup>	(%)	25.9%	47.2%	78.6%	33.5%	25.4%	12.6%	30.9%
有効回答	校数(校)	59	61	60	60	60	60	60
	(%)	92.2%	95.3%	93.8%	93.8%	93.8%	93.8%	93.8%

※1 有効回答が得られた学校の全児童生徒数を母数とした。

※2 管理が必要な児童生徒数を母数とした。

表II-2-5 東濃

		アレルギー 総数	食物ア レルギー	アナフィ ラキシー	アトピー 性皮膚炎	気管支 ぜん息	アレルギー 性鼻炎	アレルギー 性結膜炎
管理	人数(人)	2521	1193	169	481	324	1368	474
必要数	(%)	13.5%	5.2%	0.7%	2.2%	1.6%	7.0%	2.4%
管理表	人数(人)	1079	908	167	179	186	391	224
提出数 <sup>※1</sup>	(%)	5.8%	3.9%	0.7%	0.8%	0.9%	2.0%	1.1%
管理表活用率 <sup>※2</sup>	(%)	42.8%	76.1%	98.8%	37.2%	57.4%	28.6%	47.3%
有効回答	校数(校)	80	92	92	88	87	84	85
	(%)	78.4%	90.2%	90.2%	86.3%	85.3%	82.4%	83.3%

※1 有効回答が得られた学校の全児童生徒数を母数とした。

※2 管理が必要な児童生徒数を母数とした。

表II-2-6 飛騨

		アレルギー 総数	食物ア レルギー	アナフィ ラキシー	アトピー 性皮膚炎	気管支 ぜん息	アレルギー 性鼻炎	アレルギー 性結膜炎
管理	人数(人)	1067	427	81	186	104	396	114
必要数	(%)	10.7%	4.1%	0.8%	1.8%	1.0%	3.7%	1.1%
管理表	人数(人)	499	390	70	66	42	81	37
提出数 <sup>※1</sup>	(%)	5.0%	3.7%	0.7%	0.6%	0.4%	0.8%	0.4%
管理表活用率 <sup>※2</sup>	(%)	46.8%	91.3%	86.4%	35.5%	40.4%	20.5%	32.5%
有効回答	校数(校)	63	66	63	63	64	65	63
	(%)	91.3%	95.7%	91.3%	91.3%	92.8%	94.2%	91.3%

※1 有効回答が得られた学校の全児童生徒数を母数とした。

※2 管理が必要な児童生徒数を母数とした。

II-3) エピペン<sup>®</sup>を所持する児童生徒

表II-3-1 エピペン<sup>®</sup>所持人数

	小学生		中学生		全体		有効回答 学校
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	割合(%)
岐阜	283	0.7%	71	0.3%	354	0.6%	100.0%
西濃	112	0.6%	38	0.4%	150	0.5%	100.0%
美濃	38	0.5%	17	0.4%	55	0.5%	98.6%
加茂	53	0.4%	10	0.2%	63	0.3%	100.0%
東濃	69	0.4%	40	0.5%	109	0.4%	100.0%
飛騨	34	0.5%	10	0.3%	44	0.4%	100.0%
全数	589	0.6%	186	0.3%	775	0.5%	99.8%

※それぞれの地区の有効回答学校の児童生徒数を母数とした。

表Ⅱ－3－2 エピペン®所持児童が在籍している学校

	小学校		中学校		その他		全体		有効回答 学校 割合(%)
	学校数 (校)	割合 (%)	学校数 (校)	割合 (%)	学校数 (校)	割合 (%)	学校数 (校)	割合 (%)	
岐阜	82	78.1%	34	72.3%	4	50.0%	120	75.0%	100.0%
西濃	49	65.3%	22	78.6%	2	40.0%	73	67.6%	100.0%
美濃	19	42.2%	8	42.1%	0	0.0%	27	40.3%	98.6%
加茂	20	48.8%	6	28.6%	1	100.0%	27	42.9%	100.0%
東濃	33	54.1%	19	51.4%	2	100.0%	54	54.0%	100.0%
飛騨	16	43.2%	8	40.0%	1	16.7%	25	39.7%	100.0%
全数	219	60.2%	97	56.4%	10	40.0%	326	58.1%	99.8%

※それぞれの地区の有効回答学校数を母数とした。

Ⅱ－4) 学校生活管理指導表の活用

表Ⅱ－4 学校生活管理指導表の活用

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
学校保健会 発行	学校数(校)	86	105	63	60	93	60	467
	割合	53.8%	97.2%	94.0%	95.2%	93.0%	95.2%	83.2%
市町村発行	学校数(校)	64	1	1	2	6	2	76
	割合	40.0%	0.9%	1.5%	3.2%	6.0%	3.2%	13.5%
学校独自 /病院診断書	学校数(校)	1	1	0	0	0	0	2
	割合	0.6%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
保護者からの 申請書	学校数(校)	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
活用なし	学校数(校)	1	0	0	0	0	0	1
	割合	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
複数回答 +その他	学校数(校)	1	0	1	0	0	1	3
	割合	0.6%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.6%	0.5%
未記入	学校数(校)	2	0	2	0	0	0	4
	割合	1.3%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
有効回答 学校	学校数(校)	160	108	67	63	100	63	561
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※それぞれの地区の全学校数を母数とした。

Ⅲ. アナフィラキシーに対する調査項目

Ⅲ-1) エピペン®保管場所

表Ⅲ-1 エピペン®保管場所

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
預からない	学校数(校)	0	0	0	0	1	0	1
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.3%
本人の教室	学校数(校)	5	8	0	3	1	5	22
	割合	4.2%	11.0%	0.0%	11.1%	1.9%	20.0%	6.7%
保健室	学校数(校)	9	2	3	3	3	4	24
	割合	7.5%	2.7%	11.1%	11.1%	5.6%	16.0%	7.4%
校長室	学校数(校)	8	1	2	0	2	3	16
	割合	6.7%	1.4%	7.4%	0.0%	3.7%	12.0%	4.9%
職員室	学校数(校)	81	34	16	16	27	12	186
	割合	67.5%	46.6%	59.3%	59.3%	50.0%	48.0%	57.1%
本人保管	学校数(校)	39	39	11	11	25	7	132
	割合	32.5%	53.4%	40.7%	40.7%	46.3%	28.0%	40.5%
未記入	学校数(校)	2	0	0	0	1	0	3
	割合	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.9%
所持学校	学校数(校)	120	73	27	27	54	25	326

※それぞれの地区のエピペン所持児童在籍学校数を母数とした。

Ⅲ-2) アレルギー研修会について

表Ⅲ-2-1 アレルギー研修会

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
あり	学校数(校)	158	106	61	57	99	62	543
	割合	98.8%	98.1%	91.0%	90.5%	99.0%	98.4%	96.8%
なし	学校数(校)	2	2	5	6	1	1	17
	割合	1.3%	1.9%	7.5%	9.5%	1.0%	1.6%	3.0%
未記入	学校数(校)	0	0	1	0	0	0	1
	割合	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
有効回答	学校数(校)	160	108	67	63	100	63	561
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※全学校数を母数とした。

表Ⅲ-2-2 アレルギー研修会の開催頻度

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
1回	学校数(校)	137	82	51	50	92	54	466
	割合	87.3%	77.4%	83.6%	87.7%	92.9%	87.1%	
2回	学校数(校)	15	20	8	5	4	7	59
	割合	9.6%	18.9%	13.1%	8.8%	4.0%	11.3%	
3回	学校数(校)	2	3	1	2	2	1	10
	割合	1.3%	2.8%	1.6%	3.5%	2.0%	1.6%	
4回以上	学校数(校)	0	0	0	0	0	0	1
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
未記入	学校数(校)	3	1	1	0	1	0	6
	割合	1.9%	0.9%	1.6%	0.0%	1.0%	0.0%	
研修あり学校中の有効回答	学校数(校)	157	106	61	57	99	62	542
	割合	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※アレルギー研修会がある学校で有効回答を得られた(未記入を含む)学校数と母数した。

表III-2-3 アレルギー研修会の内容

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
エビベン® 実技	学校数(校)	152	103	52	55	91	52	505
	割合	96.2%	95.4%	77.6%	87.3%	91.0%	82.5%	93.2%
ロールプレイ	学校数(校)	66	56	28	20	41	34	252
	割合	41.8%	51.9%	41.8%	31.7%	41.0%	54.0%	46.5%
図上訓練	学校数(校)	8	11	6	5	6	3	39
	割合	5.1%	10.2%	9.0%	7.9%	6.0%	4.8%	7.2%
専門家による講義	学校数(校)	22	8	2	0	18	14	67
	割合	13.9%	7.4%	3.0%	0.0%	18.0%	22.2%	12.4%
その他	学校数(校)	11	5	4	4	6	7	41
	割合	7.0%	4.6%	6.0%	6.3%	6.0%	11.1%	7.6%
DVD 視聴	学校数(校)	2	4	1	1	3	0	11
	割合	1.3%	3.7%	1.5%	1.6%	3.0%	0.0%	2.0%
未記入	学校数(校)	0	0	0	0	1	0	1
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.2%
研修あり学校 中の有効回答	学校数(校)	158	106	61	57	99	62	543
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※アレルギー研修会有る学校で有効回答を得られた学校数(未記入を含む)と母数した。

### III-3) 食物依存性運動誘発アナフィラキシーへの対応

表III-3 食物依存性運動誘発アナフィラキシーに対する昼食後の体育

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
外していない	学校数(校)	102	58	38	44	68	35	345
	割合	64.2%	53.7%	56.7%	69.8%	68.0%	55.6%	61.6%
対象がいれば 外す	学校数(校)	48	39	23	13	24	23	170
	割合	30.2%	36.1%	34.3%	20.6%	24.0%	36.5%	30.4%
対象者がいなくとも外す	学校数(校)	5	8	3	2	3	1	22
	割合	3.1%	7.4%	4.5%	3.2%	3.0%	1.6%	3.9%
その他	学校数(校)	2	1	1	1	2	3	10
	割合	1.3%	0.9%	1.5%	1.6%	2.0%	4.8%	1.8%
未記入	学校数(校)	2	2	2	3	3	1	13
	割合	1.3%	1.9%	3.0%	4.8%	3.0%	1.6%	2.3%
有効回答	学校数(校)	159	108	67	63	100	63	560
	割合	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.8%

IV. 食物アレルギーに対する調査項目

IV-1) 食物アレルギー児の保護者との個別面談とその回数

表IV-1-1 個別面談の実施

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
あり	学校数(校)	153	106	61	58	89	57	524
	割合	96.2%	98.1%	88.4%	92.1%	89.0%	90.5%	93.6%
なし	学校数(校)	5	2	7	5	10	5	32
	割合	3.1%	1.9%	10.1%	7.9%	10.0%	7.9%	5.7%
未記入	学校数(校)	1	0	1	0	1	1	4
	割合	0.6%	0.0%	1.4%	0.0%	1.0%	1.6%	0.7%
有効回答	学校数(校)	159	108	69	63	100	63	560
	割合	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.8%

※有効回答学校数（未記入を含む）を母数とした。

表IV-1-2 個別面談の回数(/年)

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
1回	学校数(校)	132	92	49	50	78	52	453
	割合	86.8%	86.8%	81.7%	86.2%	87.6%	91.2%	86.8%
2回	学校数(校)	10	11	7	3	4	2	37
	割合	6.6%	10.4%	11.7%	5.2%	4.5%	3.5%	7.1%
3回	学校数(校)	2	2	1	3	1	1	10
	割合	1.3%	1.9%	1.7%	5.2%	1.1%	1.8%	1.9%
4回~11回	学校数(校)	2	1	2	1	2	0	8
	割合	1.3%	0.9%	3.3%	1.7%	2.2%	0.0%	1.5%
12回	学校数(校)	3	0	1	1	0	2	7
	割合	2.0%	0.0%	1.7%	1.7%	0.0%	3.5%	1.3%
その他	学校数(校)	1	0	0	0	3	0	4
	割合	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.8%
未記入	学校数(校)	2	0	0	0	1	0	3
	割合	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.6%
面談あり	学校数(校)	152	106	60	58	89	57	522
	割合	99.3%	100.0%	98.4%	100.0%	100.0%	100.0%	99.6%

※個別面談がある学校で、有効回答が得られた学校数(未記入も含む)を母数とした。

IV-2) 食物アレルギー対応委員会の開催

表IV-2-1 食物アレルギー対応委員会の開催

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
あり	学校数(校)	150	102	57	57	94	58	518
	割合	93.8%	94.4%	85.1%	90.5%	94.0%	92.1%	
なし	学校数(校)	10	6	9	6	6	5	42
	割合	6.3%	5.6%	13.4%	9.5%	6.0%	7.9%	
未記入	学校数(校)	0	0	1	0	0	0	1
	割合	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
有効回答	学校数(校)	160	108	67	63	100	63	561
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※全学校数を母数とした。



表IV-2-2 食物アレルギー対応委員会の追加開催

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
あり	学校数(校)	83	52	35	31	39	32	272
	割合	55.7%	51.0%	61.4%	54.4%	41.9%	55.2%	52.7%
なし	学校数(校)	48	39	17	19	42	20	185
	割合	32.2%	38.2%	29.8%	33.3%	45.2%	34.5%	35.9%
未記入	学校数(校)	18	11	5	7	12	6	59
	割合	12.1%	10.8%	8.8%	12.3%	12.9%	10.3%	11.4%
有効回答	学校数(校)	149	102	57	57	93	58	516
	割合	99.3%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%

※委員会が開催されている学校で有効回答が得られた学校数(未記入を含む)を母数とした。

表IV-2-3 食物アレルギー対応委員会の開催頻度

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
1回	学校数(校)	90	63	40	30	49	41	313
	割合	60.0%	61.8%	70.2%	52.6%	52.1%	70.7%	60.4%
2回	学校数(校)	40	31	12	19	32	16	150
	割合	26.7%	30.4%	21.1%	33.3%	34.0%	27.6%	29.0%
3回	学校数(校)	13	7	4	6	7	0	37
	割合	8.7%	6.9%	7.0%	10.5%	7.4%	0.0%	7.1%
4回~12回	学校数(校)	5	0	1	0	3	1	10
	割合	3.3%	0.0%	1.8%	0.0%	3.2%	1.7%	1.9%
複数回答	学校数(校)	0	1	0	0	0	0	1
	割合	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
未記入	学校数(校)	2	0	0	2	3	0	7
	割合	1.3%	0.0%	0.0%	3.5%	3.2%	0.0%	1.4%
委員会あり		150	102	57	57	94	58	518

※委員会が開催されている学校で有効回答が得られた学校数(未記入を含む)を母数とした。

表IV-2-4 食物アレルギー対応委員会のメンバー

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
管理職	学校数(校)	147	97	55	57	91	52	499
	割合	98.0%	97.0%	96.5%	100.0%	96.8%	91.2%	98.6%
養護教諭	学校数(校)	146	99	55	57	92	56	505
	割合	97.3%	99.0%	96.5%	100.0%	97.9%	98.2%	99.8%
栄養教諭・ 学校栄養職員	学校数(校)	136	64	35	33	67	48	383
	割合	90.7%	64.0%	61.4%	57.9%	71.3%	84.2%	75.7%
学級担任	学校数(校)	118	73	40	44	48	35	358
	割合	78.7%	73.0%	70.2%	77.2%	51.1%	61.4%	70.8%
学校医	学校数(校)	32	39	14	22	57	21	185
	割合	21.3%	39.0%	24.6%	38.6%	60.6%	36.8%	36.6%
その他	学校数(校)	48	19	13	24	32	26	162
	割合	32.0%	19.0%	22.8%	42.1%	34.0%	45.6%	32.0%
保健主事	学校数(校)	17	8	5	9	13	10	62
	割合	11.3%	8.0%	8.8%	15.8%	13.8%	17.5%	12.3%
給食主任	学校数(校)	9	1	3	4	3	13	33
	割合	6.0%	1.0%	5.3%	7.0%	3.2%	22.8%	6.5%
学年主任	学校数(校)	7	1	2	3	2	1	16
	割合	4.7%	1.0%	3.5%	5.3%	2.1%	1.8%	3.2%
教務	学校数(校)	4	0	3	1	2	3	13
	割合	2.7%	0.0%	0.0%	1.8%	2.1%	5.3%	2.6%
生徒指導	学校数(校)	2	0	1	2	2	4	11
	割合	1.3%	0.0%	1.8%	3.5%	2.1%	7.0%	2.2%
体育主任	学校数(校)	1	3	0	2	1	1	8
	割合	0.7%	3.0%	0.0%	3.5%	1.1%	1.8%	1.6%
学校 薬剤師	学校数(校)	2	1	1	1	4	3	12
	割合	1.3%	1.0%	1.8%	1.8%	4.3%	5.3%	2.4%
学校 歯科医	学校数(校)	0	0	1	1	1	2	5
	割合	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	1.1%	3.5%	1.0%
PTA 役員 /会長	学校数(校)	2	7	2	8	6	4	29
	割合	1.3%	7.0%	3.5%	14.0%	6.4%	7.0%	5.7%
保護者	学校数(校)	1	0	0	3	4	2	10
	割合	0.7%	0.0%	0.0%	5.3%	4.3%	3.5%	2.0%
調理員	学校数(校)	11	0	0	0	2	0	13
	割合	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	2.6%
用務員	学校数(校)	1	0	0	2	2	0	5
	割合	0.7%	0.0%	0.0%	3.5%	2.1%	0.0%	1.0%
未記入	学校数(校)	4	3	0	1	1	0	9
	割合	2.7%	3.0%	0.0%	1.8%	1.1%	0.0%	1.8%

※委員会が開催されている学校で有効回答が得られた学校数(未記入を含む)を母数とした。

表IV-3) 給食の方式と給食対応のレベル

表IV-3-1 給食方式

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
給食なし	学校数(校)	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
単独校調理方式	学校数(校)	88	14	5	0	22	1	130
	割合	55.0%	13.0%	7.5%	0.0%	22.0%	1.6%	23.2%
親子方式	学校数(校)	1	0	0	1	7	0	9
	割合	0.6%	0.0%	0.0%	1.6%	7.0%	0.0%	1.6%
センター方式	学校数(校)	70	94	61	62	70	61	418
	割合	43.8%	87.0%	91.0%	98.4%	70.0%	96.8%	74.5%
デリバリー方式	学校数(校)	1	0	1	0	0	0	2
	割合	0.6%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
未記入	学校数(校)	0	0	0	0	1	1	2
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.6%	0.4%
有効回答	学校数(校)	160	108	67	63	100	63	561
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※全学校数(有効回答学校数 未記入を含む)を母数とした。

表 IV-3-2 給食対応

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
給食なし	学校数(校)	5	1	0	0	0	0	6
	割合	3.1%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
詳細な献立	学校数(校)	92	67	35	32	49	25	300
	割合	57.9%	62.6%	52.2%	50.8%	49.0%	40.3%	53.8%
一部弁当対応	学校数(校)	70	32	33	28	25	10	198
	割合	44.0%	29.9%	49.3%	44.4%	25.0%	16.1%	35.5%
完全弁当対応	学校数(校)	17	3	4	5	8	2	39
	割合	10.7%	2.8%	6.0%	7.9%	8.0%	3.2%	7.0%
除去食対応	学校数(校)	111	37	29	25	40	36	278
	割合	69.8%	34.6%	43.3%	39.7%	40.0%	58.1%	49.8%
代替食	学校数(校)	24	17	41	19	47	52	201
	割合	15.1%	15.9%	61.2%	30.2%	47.0%	83.9%	36.0%
未記入	学校数(校)	2	1	1	0	2	2	8
	割合	1.3%	0.9%	1.5%	0.0%	2.0%	3.2%	1.4%
有効回答	学校数(校)	159	107	67	63	100	62	558
	割合	99.4%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	98.4%	99.5%

※割合は有効回答学校数(未記入を含む)を母数とした。 ※複数回答あり

## IV-4) 給食で提供されないことになっている食品

表IV-4 給食で提供されないことになっている食品

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
ない	学校数(校)	18	20	12	9	10	5	74
	割合	11.3%	18.5%	17.9%	14.3%	10.0%	7.9%	13.2%
落花生	学校数(校)	44	30	19	10	35	19	157
	割合	27.5%	27.8%	28.4%	15.9%	35.0%	30.2%	28.0%
クルミ	学校数(校)	27	16	12	9	34	7	105
	割合	16.9%	14.8%	17.9%	14.3%	34.0%	11.1%	18.7%
ソバ	学校数(校)	136	72	52	47	82	54	443
	割合	85.0%	66.7%	77.6%	74.6%	82.0%	85.7%	79.0%
カニ	学校数(校)	17	20	4	16	5	6	68
	割合	10.6%	18.5%	6.0%	25.4%	5.0%	9.5%	12.1%
その他	学校数(校)	14	25	5	10	11	18	83
	割合	8.8%	23.1%	7.5%	15.9%	11.0%	28.6%	14.8%
エゴマ	学校数(校)	0	0	0	0	0	14	14
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	2.5%
キウイ	学校数(校)	7	14	1	7	8	4	41
	割合	4.4%	13.0%	1.5%	11.1%	8.0%	6.3%	7.3%
エビ	学校数(校)	1	6	0	4	0	0	11
	割合	0.6%	5.6%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	2.0%
ヤマイモ	学校数(校)	0	0	0	2	4	0	6
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	4.0%	0.0%	1.1%
メロン	学校数(校)	3	3	0	3	0	0	9
	割合	1.9%	2.8%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	1.6%
生卵	学校数(校)	2	0	0	3	1	1	7
	割合	1.3%	0.0%	0.0%	4.8%	1.0%	1.6%	1.2%
アーモンド	学校数(校)	3	0	0	0	5	0	8
	割合	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	1.4%
カシュー ナッツ	学校数(校)	0	1	0	0	4	0	5
	割合	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.9%
把握なし	学校数(校)	0	4	2	2	0	1	9
	割合	0.0%	3.7%	3.0%	3.2%	0.0%	1.6%	1.6%
未記入	学校数(校)	1	0	0	0	2	2	5
	割合	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	3.2%	0.9%

※その他以下は自由記載項目 ※全学校数を母数とした。

IV-5) 給食で代替食の提供が可能である食品

表IV-5 給食で代替食の提供が可能である食品

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
給食ない	学校数(校)	2	0	0	0	0	0	499
	割合	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	98.6%
提供できない	学校数(校)	8	8	0	1	1	0	505
	割合	5.0%	7.4%	0.0%	1.6%	1.0%	0.0%	99.8%
鶏卵	学校数(校)	22	6	27	15	31	49	383
	割合	13.8%	5.6%	40.3%	23.8%	31.3%	77.8%	75.7%
牛乳	学校数(校)	12	7	15	10	46	53	358
	割合	7.5%	6.5%	22.4%	15.9%	46.5%	84.1%	70.8%
小麦	学校数(校)	4	0	11	8	11	16	185
	割合	2.5%	0.0%	16.4%	12.7%	11.1%	25.4%	36.6%
エビ	学校数(校)	12	0	22	14	24	42	162
	割合	7.5%	0.0%	32.8%	22.2%	24.2%	66.7%	32.0%
その他	学校数(校)	10	7	25	15	23	39	62
	割合	6.3%	6.5%	37.3%	23.8%	23.2%	61.9%	12.3%
魚	学校数(校)	0	0	5	1	2	15	33
	割合	0.0%	0.0%	7.5%	1.6%	2.0%	23.8%	6.5%
イカ	学校数(校)	0	0	1	4	0	2	16
	割合	0.0%	0.0%	1.5%	6.3%	0.0%	3.2%	3.2%
タコ	学校数(校)	0	0	1	0	0	1	13
	割合	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.6%	2.6%
果物	学校数(校)	0	5	9	0	3	23	11
	割合	0.0%	4.6%	13.4%	0.0%	3.0%	36.5%	2.2%
ゴマ	学校数(校)	6	0	2	5	13	7	8
	割合	3.8%	0.0%	3.0%	7.9%	13.1%	11.1%	1.6%
ピーナッツ	学校数(校)	0	0	2	6	5	3	12
	割合	0.0%	0.0%	3.0%	9.5%	5.1%	4.8%	2.4%
ナッツ類	学校数(校)	1	0	2	3	2	4	5
	割合	0.6%	0.0%	3.0%	4.8%	2.0%	6.3%	1.0%
クルミ	学校数(校)	0	0	0	3	2	0	29
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	2.0%	0.0%	5.7%
アーモンド	学校数(校)	0	0	2	0	1	1	10
	割合	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	1.0%	1.6%	2.0%
カシュー ナッツ	学校数(校)	0	0	0	0	2	1	13
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	1.6%	2.6%
デザート	学校数(校)	0	4	5	0	2	0	5
	割合	0.0%	3.7%	7.5%	0.0%	2.0%	0.0%	1.0%

※その他以下は自由記載項目 ※全学校数を母数とした。

## IV-6) 誤配・誤食防止のための対応

表IV-6 誤配・誤食防止のための対応

	岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
校長等による検食の際、	111	65	50	23	60	37	346
その日の食物アレルギー対応について確認	69.4%	60.2%	74.6%	36.5%	60.0%	58.7%	61.7%
その日の食物アレルギー対応方法を記載した カード等を活用し、配膳時に確認している	130	85	53	44	72	52	436
	81.3%	78.7%	79.1%	69.8%	72.0%	82.5%	77.7%
原因食品が該当児童生徒の食品に付着しないよう、 ふたやラップ等がされていることを 教員が確認している	110	60	52	31	64	53	370
	68.8%	55.6%	77.6%	49.2%	64.0%	84.1%	66.0%
食物アレルギー対応が必要な児童生徒の個別対応が 確実に実施できるよう役割分担ができています	126	76	49	41	58	41	391
	78.8%	70.4%	73.1%	65.1%	58.0%	65.1%	69.7%
食物アレルギー対応食（弁当を含む）を 該当児童生徒本人が直接受け取るようにしている	103	56	38	33	44	43	317
	64.4%	51.9%	56.7%	52.4%	44.0%	68.3%	56.5%
"除去食や持参食を食器に移し替える際は 学級担任が指導、見届けを行っている"	114	58	44	26	66	43	351
	71.3%	53.7%	65.7%	41.3%	66.0%	68.3%	62.6%
他の児童生徒に対し、誤配がないよう配食すること や該当児童が自分で除去することについて、実態に 応じた協力ができるように指導している"	138	91	56	56	71	50	462
	86.3%	84.3%	83.6%	88.9%	71.0%	79.4%	82.4%
学級担任が不在の際、代わりに指導にあたる教員に 食物アレルギー対応が確実に伝わるように、対処方 法を記載したカード等で引き継ぎを行っている	105	25	34	23	47	45	279
	65.6%	23.1%	50.7%	36.5%	47.0%	71.4%	49.7%
その他	11	4	5	6	10	8	44
	6.9%	3.7%	7.5%	9.5%	10.0%	12.7%	7.8%

## V. その他のアレルギー疾患等に対する調査項目

## V-1) 食物アレルギー・気管支喘息で運動制限がある児童生徒

表V-1-1 食物アレルギーのため運動制限のある児

	小学生		中学生		全体		有効回答 学校
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	割合(%)
岐阜	16	1.3%	14	2.4%	30	1.6%	94.0%
西濃	4	0.7%	2	1.0%	6	0.8%	94.7%
美濃	5	1.9%	9	6.7%	14	3.5%	95.7%
加茂	3	1.0%	5	4.8%	8	1.9%	95.3%
東濃	10	1.7%	10	3.5%	20	2.3%	89.2%
飛騨	0	0.0%	2	1.8%	2	0.5%	97.1%
全数	38	1.2%	42	2.9%	80	1.7%	94.0%

※食物アレルギーのため診断書が提出されている児童数を母数とした。

表V-1-2 気管支ぜん息のため運動制限のある児

	小学生		中学生		全体		有効回答 学校
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	割合(%)
岐阜	4	6.0%	14	56.0%	18	19.6%	82.7%
西濃	7	5.5%	6	19.4%	13	8.2%	88.5%
美濃	2	12.5%	3	20.0%	5	16.1%	91.4%
加茂	8	24.2%	0	0.0%	8	19.0%	90.6%
東濃	10	7.4%	2	4.7%	12	6.7%	83.3%
飛騨	1	3.0%	0	0.0%	1	2.4%	94.2%
全数	32	7.8%	25	18.9%	57	10.5%	87.2%

※気管支ぜん息のため診断書が提出されている児童数を母数とした。

V-2) 環境衛生管理に関する調査項目

表V-2-1 普通教室の床の材質

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
タイル	学校数(校)	25	16	8	5	2	1	52
	割合	8.9%	15.1%	12.3%	7.9%	2.0%	1.6%	8.9%
フローリング	学校数(校)	107	72	51	56	87	56	433
	割合	74.0%	67.9%	78.5%	88.9%	87.0%	90.3%	74.0%
じゅうたん	学校数(校)	0	1	0	0	0	0	2
	割合	0.3%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
その他	学校数(校)	15	12	3	0	8	5	40
	割合	6.8%	11.3%	4.6%	0.0%	8.0%	8.1%	6.8%
木材	学校数(校)	13	10	2	0	8	5	33
	割合	5.6%	9.4%	3.1%	0.0%	8.0%	8.1%	5.6%
Pタイル	学校数(校)	2	2	1	0	0	0	4
	割合	0.7%	1.9%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
未記入	学校数(校)	6	5	3	2	3	0	21
	割合	3.6%	4.7%	4.6%	3.2%	3.0%	0.0%	3.6%
有効回答	学校数(校)	152	106	65	63	100	62	548
	割合	95.0%	98.1%	97.0%	100.0%	100.0%	98.4%	97.7%

※その他以下は自由記載項目 ※母数は有効回答学校数(未記入も含む)とした。

表V-2-2 ダニ・ダニアレルゲンの測定の有無

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
あり	学校数(校)	159	107	67	41	70	63	507
	割合	99.4%	100.0%	100.0%	65.1%	70.0%	100.0%	90.5%
なし	学校数(校)	0	0	0	22	30	0	52
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	34.9%	30.0%	0.0%	9.3%
未記入	学校数(校)	1	0	0	0	0	0	1
	割合	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
有効回答 学校	学校数(校)	160	107	67	63	100	63	560
	割合	100.0%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.8%

※全学校数を母数とした。



表V-2-3 ダニ・ダニアレグンの測定回数(/年)

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
1回	学校数(校)	155	106	65	38	69	61	494
	割合	97.5%	99.1%	97.0%	92.7%	98.6%	96.8%	97.4%
2回	学校数(校)	3	0	2	2	1	0	8
	割合	1.9%	0.0%	3.0%	4.9%	1.4%	0.0%	1.6%
3回以上	学校数(校)	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
未記入	学校数(校)	1	1	0	1	0	2	5
	割合	0.6%	0.9%	0.0%	2.4%	0.0%	3.2%	1.0%
ダニ測定あり	学校数(校)	159	107	67	41	70	63	507

※ダニ・ダニアレグンの測定がある学校数(未記入も含む)を母数とした。

表V-2-4 ダニ・ダニアレグンの測定箇所

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
1か所	学校数(校)	18	43	6	9	17	22	115
	割合	11.3%	40.2%	9.0%	22.0%	24.3%	34.9%	22.7%
2か所	学校数(校)	77	41	33	12	26	3	192
	割合	48.4%	38.3%	49.3%	29.3%	37.1%	4.8%	37.9%
3か所	学校数(校)	27	5	8	7	6	26	79
	割合	17.0%	4.7%	11.9%	17.1%	8.6%	41.3%	15.6%
4か所	学校数(校)	7	0	1	2	2	0	12
	割合	4.4%	0.0%	1.5%	4.9%	2.9%	0.0%	2.4%
5か所	学校数(校)	4	0	3	3	5	0	15
	割合	2.5%	0.0%	4.5%	7.3%	7.1%	0.0%	3.0%
6か所以上	学校数(校)	0	1	3	2	0	0	6
	割合	0.0%	0.9%	4.5%	4.9%	0.0%	0.0%	1.2%
未記入	学校数(校)	26	17	13	6	14	12	88
	割合	16.4%	15.9%	19.4%	14.6%	20.0%	19.0%	17.4%
ダニ測定あり	学校数(校)	159	107	67	41	70	63	507

※ダニ・ダニアレグンの測定がある学校数(未記入も含む)を母数とした。

表V-2-5 ダニ・ダニアレルゲン測定場所

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
保健室	学校数(校)	148	65	62	34	53	51	413
	割合	93.1%	60.7%	92.5%	82.9%	75.7%	81.0%	81.5%
教室	学校数(校)	12	24	8	6	13	4	67
	割合	7.5%	22.4%	11.9%	14.6%	18.6%	6.3%	13.2%
その他	学校数(校)	132	73	55	29	48	39	376
	割合	83.0%	68.2%	82.1%	70.7%	68.6%	61.9%	74.2%
パソコン室	学校数(校)	88	29	21	12	19	12	181
	割合	55.3%	27.1%	31.3%	29.3%	27.1%	19.0%	35.7%
音楽室	学校数(校)	49	14	17	12	13	11	116
	割合	30.8%	13.1%	25.4%	29.3%	18.6%	17.5%	22.9%
図書室	学校数(校)	16	16	12	7	12	11	74
	割合	10.1%	15.0%	17.9%	17.1%	17.1%	17.5%	14.6%
放送室	学校数(校)	11	1	1	2	5	3	23
	割合	6.9%	0.9%	1.5%	4.9%	7.1%	4.8%	4.5%
校長室	学校数(校)	1	1	1	1	4	0	8
	割合	0.6%	0.9%	1.5%	2.4%	5.7%	0.0%	1.6%
視聴覚室	学校数(校)	1	1	1	2	0	1	6
	割合	0.6%	0.9%	1.5%	4.9%	0.0%	1.6%	1.2%
特別教室	学校数(校)	6	9	3	1	3	1	23
	割合	3.8%	8.4%	4.5%	2.4%	4.3%	1.6%	4.5%
じゅうたんの 部屋	学校数(校)	5	6	3	6	4	10	34
	割合	3.1%	5.6%	4.5%	14.6%	5.7%	15.9%	6.7%
体育館マット	学校数(校)	0	1	0	0	0	5	6
	割合	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7.9%	1.2%
和室	学校数(校)	2	0	0	0	5	0	7
	割合	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	1.4%
未記入	学校数(校)	0	1	0	1	0	0	2
	割合	0.0%	0.9%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.4%
ダニ測定あり	学校数(校)	159	107	67	41	70	63	507

※ダニ・ダニアレルゲンの測定がある学校数(未記入も含む)を母数とした。

※その他以下は自由記載項目

V-3) アトピー性皮膚炎に対する配慮について

表V-3-1 アトピー性皮膚炎児に対する夏季シャワー浴の対応

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
対応なし	学校数(校)	42	28	22	19	43	11	165
	割合	26.3%	26.2%	32.8%	30.2%	43.0%	17.7%	29.4%
要望があれば 対応	学校数(校)	104	75	36	40	47	49	351
	割合	65.0%	70.1%	53.7%	63.5%	47.0%	79.0%	62.6%
現在も対応 している	学校数(校)	7	4	8	3	8	1	31
	割合	4.4%	3.7%	11.9%	4.8%	8.0%	1.6%	5.5%
未記入	学校数(校)	7	0	1	1	2	1	12
	割合	4.4%	0.0%	1.5%	1.6%	2.0%	1.6%	2.1%
有効回答 学校	学校数(校)	160	107	67	63	100	62	559
	割合	100%	99.1%	100%	100%	100%	98.4%	99.6%

※有効回答学校数(未記入も含む)を母数とした。

表V-3-2 シャワー浴の対応ができない理由

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
人員不足	学校数(校)	2	0	0	3	1	0	6
	割合	4.9%	0.0%	0.0%	16.7%	2.4%	0.0%	3.7%
設備なし	学校数(校)	32	23	22	12	37	10	135
	割合	78.0%	85.2%	95.7%	66.7%	90.2%	90.9%	83.9%
その他	学校数(校)	4	3	1	3	2	0	13
	割合	9.8%	11.1%	4.3%	16.7%	4.9%	0.0%	8.1%
未記入	学校数(校)	3	1	0	0	1	1	7
	割合	7.3%	3.7%	0.0%	0.0%	2.4%	9.1%	4.3%
対応不可で 有効回答	学校数(校)	41	27	22	19	41	11	161
	割合	97.6%	96.4%	100.0%	100.0%	95.3%	100.0%	97.6%

※対応なし学校で有効回答を得られた学校数(未記入も含む)を母数とした。

表V-3-3 アトピー性皮膚炎児に対する軟膏塗布の対応

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
対応なし	学校数(校)	21	7	3	4	19	4	58
	割合	13.1%	6.5%	4.5%	6.3%	19.0%	6.3%	10.4%
要望があれば 対応	学校数(校)	119	88	47	49	70	53	426
	割合	74.4%	81.5%	71.2%	77.8%	70.0%	84.1%	76.2%
現在も対応 している	学校数(校)	15	13	14	9	8	5	64
	割合	9.4%	12.0%	21.2%	14.3%	8.0%	7.9%	11.4%
未記入	学校数(校)	4	0	2	1	3	1	11
	割合	2.5%	0.0%	3.0%	1.6%	3.0%	1.6%	2.0%
有効回答 学校	学校数(校)	160	108	66	63	100	63	559
	割合	100.0%	100.0%	98.5%	100.0%	100.0%	100.0%	99.6%

※有効回答学校数(未記入も含む)を母数とした。

表V-3-4 軟膏塗布の対応ができない理由

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
人員不足	学校数(校)	2	0	0	0	2	0	4
	割合	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	
誤投薬の危険のため	学校数(校)	2	1	1	1	3	1	9
	割合	10.5%	14.3%	33.3%	33.3%	16.7%	25.0%	
その他	学校数(校)	12	5	1	2	10	2	32
	割合	63.2%	71.4%	33.3%	66.7%	55.6%	50.0%	
本人が塗布	学校数(校)	6	4	0	1	3	2	16
	割合	31.6%	57.1%	0.0%	33.3%	16.7%	50.0%	
未記入	学校数(校)	3	1	1	0	3	1	9
	割合	15.8%	14.3%	33.3%	0.0%	16.7%	25.0%	
対応不可で有効回答	学校数(校)	19	7	3	3	18	4	54
	割合	90.5%	100.0%	100.0%	75.0%	94.7%	100.0%	93.1%

※軟膏塗布の対応ができない学校数(未記入を含む)を母数とした。

※「本人が塗布」はその他の選択肢での自由記載項目

V-4) 学校で動物の飼育と配慮が必要な児童生徒への対応

表V-4-1 動物飼育の有無、飼育動物

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
飼育なし	学校数(校)	86	67	44	34	64	36	331
	割合	53.8%	62.0%	65.7%	54.0%	64.0%	57.1%	59.0%
ウサギ	学校数(校)	36	9	2	6	8	4	65
	割合	22.5%	8.3%	3.0%	9.5%	8.0%	6.3%	11.6%
モルモット	学校数(校)	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ハムスター	学校数(校)	2	0	0	0	0	0	2
	割合	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
ニワトリ	学校数(校)	7	0	0	0	0	0	7
	割合	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
アヒル	学校数(校)	1	0	0	0	0	0	1
	割合	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
カモ	学校数(校)	1	3	0	0	0	0	4
	割合	0.6%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
ヤギ	学校数(校)	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
カメ	学校数(校)	7	0	1	2	4	4	18
	割合	4.4%	0.0%	1.5%	3.2%	4.0%	6.3%	3.2%
カエル	学校数(校)	2	1	0	0	2	1	6
	割合	1.3%	0.9%	0.0%	0.0%	2.0%	1.6%	1.1%
魚	学校数(校)	48	35	20	22	24	22	171
	割合	30.0%	32.4%	29.9%	34.9%	24.0%	34.9%	30.5%
その他	学校数(校)	1	2	0	0	1	0	19
	割合	0.6%	1.9%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	3.4%
飼育あり	学校数(校)	34	29	17	19	19	15	133
	割合	21.3%	26.9%	25.4%	30.2%	19.0%	23.8%	23.7%

※全学校数を母数とした。

表V-4-2 動物との接触に対する配慮

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨	全体
対応なし	学校数(校)	13	6	6	10	8	4	47
	割合	17.8%	15.0%	26.1%	34.5%	22.9%	14.8%	20.7%
飼育を避ける	学校数(校)	53	26	15	15	21	20	150
	割合	72.6%	65.0%	65.2%	51.7%	60.0%	74.1%	66.1%
その他	学校数(校)	7	7	2	4	5	3	28
	割合	9.6%	17.5%	8.7%	13.8%	14.3%	11.1%	12.3%
未記入	学校数(校)	0	1	0	0	1	0	2
	割合	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.9%
有効回答 学校	学校数(校)	73	40	23	29	35	27	227
	割合	98.6%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%

※動物飼育がある学校数(未記入を含む)を母数とした。

## VI. 養護教諭の業務とアレルギー疾患への認識

### VI-1) 食物アレルギーに対する学校現場での実際の対応数

表VI-1 有効な回答のあった学校のうち保健室などでのアレルギー関連の対応

		岐阜	西濃	美濃	加茂	東濃	飛騨
アレルギー対応を要した学校数	学校数(校)	38	8	16	7	30	12
	割合(%)*1	40.0%	11.1%	34.8%	20.0%	52.6%	29.3%
食物アレルギー症状で内服・保健室での経過観察など対応をした児	人数(人)	168	51	54	12	123	19
事前に申告のない新規発症の食物アレルギーの症状で対応をした児	人数(人)	22	10	5	2	11	2
	割合(%)*2	13.1%	19.6%	9.3%	16.7%	8.9%	10.5%
食物アレルギーまたは食物アレルギーによるアナフィラキシーで救急搬送をした児	人数(人)	7	5	2	1	7	0
事前に申告のない新規発症の食物アレルギーの症状で救急搬送をした児	人数(人)	4	0	1	0	2	0
	割合(%)*3	57.1%	0.0%	50.0%	0.0%	28.6%	
学校活動中のエビベン投与(人)	人数(人)	0	3	0	0	3	0
アレルギー疾患以外の病気で医療機関の受診を要した児	人数(人)	345	119	274	109	385	92
外傷で医療機関の受診を要した児	人数(人)	1283	910	290	182	575	118
有効回答学校	学校数(校)	95	72	46	35	57	41
	割合(%)*3	56.5%	63.7%	65.7%	54.7%	55.9%	59.4%

※1 有効回答が得られた全学校数を母数とした。

※2 食物アレルギー症状で内服・保健室での経過観察など対応した人数を母数とした。

※3 アナフィラキシーで救急搬送をした人数を母数とした。

## VI-2) アレルギー疾患をもつ児童生徒の受け入れについての認識

表VI-2-1 岐阜

		1	2	3	4	5	該当なし	未記入
入学時の受け入れが難しい	学校数(校)	58	14	64	14	5	2	2
	割合	36.5%	8.8%	40.3%	8.8%	3.1%	1.3%	1.3%
給食センターとの連携が難しい	学校数(校)	41	14	33	7	7	56	1
	割合	25.8%	8.8%	20.8%	4.4%	4.4%	35.2%	0.6%
医療機関との連携が難しい	学校数(校)	27	11	59	34	21	4	2
	割合	17.1%	7.0%	37.3%	21.5%	13.3%	2.5%	1.3%
内服薬のタイミングが難しい	学校数(校)	21	10	45	23	40	18	2
	割合	13.2%	6.3%	28.3%	14.5%	25.2%	11.3%	1.3%
エピペン使用のタイミングが難しい	学校数(校)	21	15	38	18	46	18	3
	割合	13.2%	9.4%	23.9%	11.3%	28.9%	11.3%	1.9%
救急搬送の方法が難しい	学校数(校)	21	15	38	18	46	18	3
	割合	13.2%	9.4%	23.9%	11.3%	28.9%	11.3%	1.9%
保護者との連携が難しい	学校数(校)	37	23	60	23	14	1	1
	割合	23.3%	14.5%	37.7%	14.5%	8.8%	0.6%	0.6%
職員同士の連携が難しい	学校数(校)	44	29	49	27	8	1	1
	割合	27.7%	18.2%	30.8%	17.0%	5.0%	0.6%	0.6%
保護者とのやり取りが難しい	学校数(校)	26	22	66	29	12	1	2
	割合	16.5%	13.9%	41.8%	18.4%	7.6%	0.6%	1.3%
保護者の要求への対応が難しい	学校数(校)	19	18	68	28	21	3	2
	割合	11.9%	11.3%	42.8%	17.6%	13.2%	1.9%	1.3%
配膳への注意が難しい	学校数(校)	19	13	67	34	20	2	2
	割合	12.1%	8.3%	42.7%	21.7%	12.7%	1.3%	1.3%
調理実習などの対応が難しい	学校数(校)	20	9	61	36	30	1	2
	割合	12.6%	5.7%	38.4%	22.6%	18.9%	0.6%	1.3%
校外学習への対応が難しい	学校数(校)	12	6	40	44	55	1	1
	割合	7.5%	3.8%	25.2%	27.7%	34.6%	0.6%	0.6%
動物飼育への対応が難しい	学校数(校)	30	9	39	11	3	67	1
	割合	18.8%	5.6%	24.4%	6.9%	1.9%	41.9%	0.6%
本人への説明が難しい	学校数(校)	48	22	70	10	5	2	1
	割合	30.4%	13.9%	44.3%	6.3%	3.2%	1.3%	0.6%
患児の友人への説明が難しい	学校数(校)	38	23	61	23	8	4	1
	割合	24.1%	14.6%	38.6%	14.6%	5.1%	2.5%	0.6%

表VI-2-2 西濃

		1	2	3	4	5	該当なし	未記入
入学時の受け入れが難しい	学校数(校)	41	8	36	10	11	1	0
	割合	38.3%	7.5%	33.6%	9.3%	10.3%	0.9%	0.0%
給食センターとの連携が難しい	学校数(校)	35	8	41	9	5	9	0
	割合	32.7%	7.5%	38.3%	8.4%	4.7%	8.4%	0.0%
医療機関との連携が難しい	学校数(校)	18	7	40	23	18	0	1
	割合	16.8%	6.5%	37.4%	21.5%	16.8%	0.0%	0.9%
内服薬のタイミングが難しい	学校数(校)	10	9	30	20	22	16	0
	割合	9.3%	8.4%	28.0%	18.7%	20.6%	15.0%	0.0%
エビペン使用のタイミングが難しい	学校数(校)	14	6	23	24	30	10	0
	割合	13.1%	5.6%	21.5%	22.4%	28.0%	9.3%	0.0%
救急搬送の方法が難しい	学校数(校)	28	14	33	16	15	1	0
	割合	26.2%	13.1%	30.8%	15.0%	14.0%	0.9%	0.0%
保護者との連携が難しい	学校数(校)	32	12	30	19	14	0	0
	割合	29.9%	11.2%	28.0%	17.8%	13.1%	0.0%	0.0%
職員同士の連携が難しい	学校数(校)	30	14	34	23	7	0	0
	割合	27.8%	13.0%	31.5%	21.3%	6.5%	0.0%	0.0%
保護者とのやり取りが難しい	学校数(校)	30	8	36	19	15	0	0
	割合	27.8%	7.4%	33.3%	17.6%	13.9%	0.0%	0.0%
保護者の要求への対応が難しい	学校数(校)	22	9	40	22	14	0	0
	割合	20.6%	8.4%	37.4%	20.6%	13.1%	0.0%	0.0%
配膳への注意が難しい	学校数(校)	12	12	39	26	18	0	0
	割合	11.2%	11.2%	36.4%	24.3%	16.8%	0.0%	0.0%
調理実習などの対応が難しい	学校数(校)	9	7	41	26	23	1	0
	割合	8.4%	6.5%	38.3%	24.3%	21.5%	0.9%	0.0%
校外学習への対応が難しい	学校数(校)	8	5	25	32	38	0	0
	割合	7.4%	4.6%	23.1%	29.6%	35.2%	0.0%	0.0%
動物飼育への対応が難しい	学校数(校)	19	6	26	4	4	49	0
	割合	17.6%	5.6%	24.1%	3.7%	3.7%	45.4%	0.0%
本人への説明が難しい	学校数(校)	24	14	48	16	3	1	0
	割合	22.6%	13.2%	45.3%	15.1%	2.8%	0.9%	0.0%
患児の友人への説明が難しい	学校数(校)	17	14	48	18	7	1	0
	割合	16.2%	13.3%	45.7%	17.1%	6.7%	1.0%	0.0%

表VI-2-3 美濃

		1	2	3	4	5	該当なし	未記入
入学時の受け入れが難しい	学校数(校)	29	2	25	5	4	2	0
	割合	43.3%	3.0%	37.3%	7.5%	6.0%	3.0%	0.0%
給食センターとの連携が難しい	学校数(校)	29	3	24	6	3	2	0
	割合	43.3%	4.5%	35.8%	9.0%	4.5%	3.0%	0.0%
医療機関との連携が難しい	学校数(校)	9	2	33	9	12	1	0
	割合	13.6%	3.0%	50.0%	13.6%	18.2%	1.5%	0.0%
内服薬のタイミングが難しい	学校数(校)	6	2	18	11	19	11	0
	割合	9.0%	3.0%	26.9%	16.4%	28.4%	16.4%	0.0%
エビペン使用のタイミングが難しい	学校数(校)	6	3	14	12	11	21	0
	割合	9.0%	4.5%	20.9%	17.9%	16.4%	31.3%	0.0%
救急搬送の方法が難しい	学校数(校)	9	4	25	10	14	4	0
	割合	13.4%	6.0%	37.3%	14.9%	20.9%	6.0%	0.0%
保護者との連携が難しい	学校数(校)	18	6	27	11	3	1	0
	割合	27.3%	9.1%	40.9%	16.7%	4.5%	1.5%	0.0%
職員同士の連携が難しい	学校数(校)	21	6	31	6	2	1	0
	割合	31.3%	9.0%	46.3%	9.0%	3.0%	1.5%	0.0%
保護者とのやり取りが難しい	学校数(校)	18	7	25	11	4	1	0
	割合	27.3%	10.6%	37.9%	16.7%	6.1%	1.5%	0.0%
保護者の要求への対応が難しい	学校数(校)	13	5	26	11	10	1	0
	割合	19.7%	7.6%	39.4%	16.7%	15.2%	1.5%	0.0%
配膳への注意が難しい	学校数(校)	10	6	30	10	10	1	0
	割合	14.9%	9.0%	44.8%	14.9%	14.9%	1.5%	0.0%
調理実習などの対応が難しい	学校数(校)	6	3	25	13	19	1	0
	割合	9.0%	4.5%	37.3%	19.4%	28.4%	1.5%	0.0%
校外学習への対応が難しい	学校数(校)	4	2	17	17	26	1	0
	割合	6.0%	3.0%	25.4%	25.4%	38.8%	1.5%	0.0%
動物飼育への対応が難しい	学校数(校)	8	2	17	6	3	30	0
	割合	12.1%	3.0%	25.8%	9.1%	4.5%	45.5%	0.0%
本人への説明が難しい	学校数(校)	18	8	32	5	3	1	0
	割合	26.9%	11.9%	47.8%	7.5%	4.5%	1.5%	0.0%
患児の友人への説明が難しい	学校数(校)	19	5	30	8	4	1	0
	割合	28.4%	7.5%	44.8%	11.9%	6.0%	1.5%	0.0%



表VI-2-4 加茂

		1	2	3	4	5	該当なし	未記入
入学時の受け入れが難しい	学校数(校)	23	7	17	11	4	0	1
	割合	36.5%	11.1%	27.0%	17.5%	6.3%	0.0%	1.6%
給食センターとの連携が難しい	学校数(校)	24	4	20	6	7	1	1
	割合	38.1%	6.3%	31.7%	9.5%	11.1%	1.6%	1.6%
医療機関との連携が難しい	学校数(校)	8	6	26	12	10	0	1
	割合	12.7%	9.5%	41.3%	19.0%	15.9%	0.0%	1.6%
内服薬のタイミングが難しい	学校数(校)	11	3	24	10	9	5	1
	割合	17.5%	4.8%	38.1%	15.9%	14.3%	7.9%	1.6%
エビベン使用のタイミングが難しい	学校数(校)	5	7	19	12	12	7	1
	割合	7.9%	11.1%	30.2%	19.0%	19.0%	11.1%	1.6%
救急搬送の方法が難しい	学校数(校)	9	10	22	8	11	2	1
	割合	14.3%	15.9%	34.9%	12.7%	17.5%	3.2%	1.6%
保護者との連携が難しい	学校数(校)	18	7	22	12	3	0	1
	割合	28.6%	11.1%	34.9%	19.0%	4.8%	0.0%	1.6%
職員同士の連携が難しい	学校数(校)	20	4	24	10	4	0	1
	割合	31.7%	6.3%	38.1%	15.9%	6.3%	0.0%	1.6%
保護者とのやり取りが難しい	学校数(校)	18	8	25	8	3	0	1
	割合	28.6%	12.7%	39.7%	12.7%	4.8%	0.0%	1.6%
保護者の要求への対応が難しい	学校数(校)	11	6	25	13	7	0	1
	割合	17.5%	9.5%	39.7%	20.6%	11.1%	0.0%	1.6%
配膳への注意が難しい	学校数(校)	9	6	23	15	9	0	1
	割合	14.3%	9.5%	36.5%	23.8%	14.3%	0.0%	1.6%
調理実習などの対応が難しい	学校数(校)	5	7	21	12	16	1	1
	割合	7.9%	11.1%	33.3%	19.0%	25.4%	1.6%	1.6%
校外学習への対応が難しい	学校数(校)	2	8	17	12	22	1	1
	割合	3.2%	12.7%	27.0%	19.0%	34.9%	1.6%	1.6%
動物飼育への対応が難しい	学校数(校)	15	6	22	5	1	13	1
	割合	23.8%	9.5%	34.9%	7.9%	1.6%	20.6%	1.6%
本人への説明が難しい	学校数(校)	23	8	23	6	2	0	1
	割合	36.5%	12.7%	36.5%	9.5%	3.2%	0.0%	1.6%
患児の友人への説明が難しい	学校数(校)	20	7	23	9	3	0	1
	割合	31.7%	11.1%	36.5%	14.3%	4.8%	0.0%	1.6%

表VI-2-5 東濃

		1	2	3	4	5	該当なし	未記入
入学時の受け入れが難しい	学校数(校)	32	4	42	8	10	2	2
	割合	32.0%	4.0%	42.0%	8.0%	10.0%	2.0%	2.0%
給食センターとの連携が難しい	学校数(校)	33	6	36	8	8	7	2
	割合	33.0%	6.0%	36.0%	8.0%	8.0%	7.0%	2.0%
医療機関との連携が難しい	学校数(校)	14	2	41	19	21	2	1
	割合	14.0%	2.0%	41.0%	19.0%	21.0%	2.0%	1.0%
内服薬のタイミングが難しい	学校数(校)	9	5	22	21	27	15	1
	割合	9.0%	5.0%	22.0%	21.0%	27.0%	15.0%	1.0%
エビペン使用のタイミングが難しい	学校数(校)	7	6	16	18	35	16	2
	割合	7.0%	6.0%	16.0%	18.0%	35.0%	16.0%	2.0%
救急搬送の方法が難しい	学校数(校)	10	8	44	22	9	5	2
	割合	10.0%	8.0%	44.0%	22.0%	9.0%	5.0%	2.0%
保護者との連携が難しい	学校数(校)	21	11	45	10	10	2	1
	割合	21.0%	11.0%	45.0%	10.0%	10.0%	2.0%	1.0%
職員同士の連携が難しい	学校数(校)	23	13	38	13	10	2	1
	割合	23.0%	13.0%	38.0%	13.0%	10.0%	2.0%	1.0%
保護者とのやり取りが難しい	学校数(校)	17	9	41	16	14	2	1
	割合	17.0%	9.0%	41.0%	16.0%	14.0%	2.0%	1.0%
保護者の要求への対応が難しい	学校数(校)	13	9	39	18	17	3	1
	割合	13.0%	9.0%	39.0%	18.0%	17.0%	3.0%	1.0%
配膳への注意が難しい	学校数(校)	12	6	45	16	17	2	2
	割合	12.0%	6.0%	45.0%	16.0%	17.0%	2.0%	2.0%
調理実習などの対応が難しい	学校数(校)	10	7	30	23	27	2	1
	割合	10.0%	7.0%	30.0%	23.0%	27.0%	2.0%	1.0%
校外学習への対応が難しい	学校数(校)	6	7	18	20	46	2	1
	割合	6.0%	7.0%	18.0%	20.0%	46.0%	2.0%	1.0%
動物飼育への対応が難しい	学校数(校)	21	3	25	7	8	35	1
	割合	21.0%	3.0%	25.0%	7.0%	8.0%	35.0%	1.0%
本人への説明が難しい	学校数(校)	25	12	46	10	4	2	1
	割合	25.0%	12.0%	46.0%	10.0%	4.0%	2.0%	1.0%
患児の友人への説明が難しい	学校数(校)	15	14	41	17	10	2	1
	割合	15.0%	14.0%	41.0%	17.0%	10.0%	2.0%	1.0%

表VI-2-6 飛騨

		1	2	3	4	5	該当なし	未記入
入学時の受け入れが難しい	学校数(校)	30	9	16	5	0	2	1
	割合	47.6%	14.3%	25.4%	7.9%	0.0%	3.2%	1.6%
給食センターとの連携が難しい	学校数(校)	29	7	15	5	3	3	1
	割合	46.0%	11.1%	23.8%	7.9%	4.8%	4.8%	1.6%
医療機関との連携が難しい	学校数(校)	18	4	24	7	7	2	1
	割合	28.6%	6.3%	38.1%	11.1%	11.1%	3.2%	1.6%
内服薬のタイミングが難しい	学校数(校)	6	5	16	12	11	12	1
	割合	9.5%	7.9%	25.4%	19.0%	17.5%	19.0%	1.6%
エピペン使用のタイミングが難しい	学校数(校)	3	6	12	10	13	18	1
	割合	4.8%	9.5%	19.0%	15.9%	20.6%	28.6%	1.6%
救急搬送の方法が難しい	学校数(校)	13	13	21	4	8	3	1
	割合	20.6%	20.6%	33.3%	6.3%	12.7%	4.8%	1.6%
保護者との連携が難しい	学校数(校)	18	8	21	11	2	2	1
	割合	28.6%	12.7%	33.3%	17.5%	3.2%	3.2%	1.6%
職員同士の連携が難しい	学校数(校)	24	8	20	5	3	2	1
	割合	38.1%	12.7%	31.7%	7.9%	4.8%	3.2%	1.6%
保護者とのやり取りが難しい	学校数(校)	17	8	23	9	3	2	1
	割合	27.0%	12.7%	36.5%	14.3%	4.8%	3.2%	1.6%
保護者の要求への対応が難しい	学校数(校)	12	7	23	13	5	2	1
	割合	19.0%	11.1%	36.5%	20.6%	7.9%	3.2%	1.6%
配膳への注意が難しい	学校数(校)	11	6	23	14	4	3	2
	割合	17.5%	9.5%	36.5%	22.2%	6.3%	4.8%	3.2%
調理実習などの対応が難しい	学校数(校)	5	11	20	11	12	3	1
	割合	7.9%	17.5%	31.7%	17.5%	19.0%	4.8%	1.6%
校外学習への対応が難しい	学校数(校)	4	7	13	16	19	2	1
	割合	6.5%	11.3%	21.0%	25.8%	30.6%	3.2%	1.6%
動物飼育への対応が難しい	学校数(校)	11	2	16	3	4	26	1
	割合	17.5%	3.2%	25.4%	4.8%	6.3%	41.3%	1.6%
本人への説明が難しい	学校数(校)	23	8	19	8	1	2	1
	割合	37.1%	12.9%	30.6%	12.9%	1.6%	3.2%	1.6%
患児の友人への説明が難しい	学校数(校)	18	8	20	10	3	2	1
	割合	29.0%	12.9%	32.3%	16.1%	4.8%	3.2%	1.6%

## 第Ⅷ章

### 総括

アレルギー疾患を認める児童生徒は多く、学校が把握しているだけでも3割程度に上る。特に食物アレルギーについては、小学校中学校ともに6%を上回っており、またアナフィラキシーについても1%未満ではあるが注意が必要と考えられた。

学校生活管理指導表はほとんどの学校で活用されていた。また、アレルギー研修会についてはほとんどの学校で実施されており、AEDの研修会と同等と思われた。エピペンの実技はほとんどで実施されており、ロールプレイについても比較的多く実施されていた。また、個別面談や食物アレルギー対応委員会についてもほとんどで対応がされていた。誤配・誤食防止のための対応については、おおむね適切に運用されていると考えられるが、ひとつひとつの項目ごとにはばらつきもあるため、各施設でのさらなる対応方法の見直しなどの余地がある可能性も考えられた。

運動制限や動物飼育の対応、アトピー性皮膚炎へのシャワー浴、軟膏塗布など必要に応じて対応が行われていた。また、環境衛生管理についてもおおむね適切に運用されていたが、なしと回答されている学校もあった。

特に、養護教諭の意識として、校外学習や調理実習への対応の難しさや、内服薬・エピペン®の使用のタイミングの難しさ、医療機関との連携への難しさなどが比較的高い割合で難しいと感じている状況がわかった。

エピペン®を所持している児童生徒数は1%に満たないがエピペン®を所持している児童生徒がいる学校は半数を上回っていた。エピペン®の保管場所については、職員室保管や本人保管がおおいが、特にエピペン®を所持している生徒がいない学校では預からないとしている学校も多く、エピペン®の保管場所が十分に決まっているのかについて追加の確認が必要と考えられた。また、今回の調査で、有効回答が得られた学校のみでまとめた結果ではあるが、食物アレルギーの症状で対応を要した児童生徒のうち、事前に申告のない新規発症のものは2割程度を締めていたこと、また、食物アレルギーの症状で救急搬送を要した児童生徒のうち、事前に申告のない新規発症のものは6割程度を締めていたことは大変重要であり、現在重症の症状がでることがわかっている児童生徒がいない場合にも十分な準備が必要である事が示唆された。この部分については、申告すべきものが申告されていなかったのか、それとも全く新規に発症したために予想がつかなかったものなのか、また、原因の食品や病型(即時型アレルギーなのか食物依存性運動誘発アナフィラキシーなのか)なども不明であり、今後追加の調査が必要であると考えられた。

注：本報告書は「公用文作成の要領」の見直しに関する国語課題小委員会の検討状況(案)(令和1年11月8日；文化庁文化審議会第72回国語分科会)の主旨をふまえて「、」と「。」で表記した。

調査へのご協力をお願い（養護教諭向け）

「岐阜県内の学校現場におけるアレルギー疾患の実態調査」へのご協力をお願い

アレルギーは、こどもにも比較的多い疾患で、一部には気管支喘息やアナフィラキシーなど生命に危険を及ぼす病気も含まれています。特に最近食物アレルギーの患者さんが増加してきていることから、学校現場でもさまざまな対応が求められるところです。そこで、実際にアレルギー疾患の対応をされている養護教諭の先生方と、アレルギー疾患をもつ児童生徒の保護者の方にアンケートをとることで、学校現場でどのような対応がなされているかの実態調査を行い、現状を把握するための調査研究を行いたいと考えています。

大変お忙しいところお手数をおかけしますが、アンケートの記入に何卒ご協力をお願いします。

- アンケートの記入は任意です。  
研究の意義に賛同いただける場合にアンケートにご記入ください。
- アンケートはA3裏表1枚のマークシート形式です。  
(記入にあたって、この紙の裏面の記入方法をご一読ください。)  
(汚れたり破れたりした場合は、新しいものを準備しますのでご連絡ください。)
- 今回の調査は、医学研究の一環として行っており、  
岐阜大学大学院医学系研究科倫理審査委員会の審査を受け、  
研究科長・附属病院長の許可を得て行っています
- 調査の結果は、報告書を作成するとともに、  
国内外の学会で発表したり、国内外の医学系雑誌での発表を考えています。  
その際には個人を特定できないように配慮します。
- アンケートの最初のページに研究協力への同意を確認する欄があります。  
ご協力いただける場合にはアンケートページの問題の前にある同意確認欄の  
を塗りつぶしてから回答をお願いします。

調査についてのお問い合わせ先：

岐阜大学医学部附属病院 アレルギーセンター  
 岐阜大学医学部附属病院 小児科 川本典生  
 岐阜市柳戸1-1 Tel: 058-230-6386 (小児科医局)  
 Fax: 058-230-6387 (小児科医局)

岐阜大学医学部附属病院 アレルギーセンターについて

今や国民の2人に1人は何らかのアレルギー疾患をもつとされており、その対策が進められています。平成27年12月に、「アレルギー対策基本法」が施行され、医療をどの地域でもおなじように質の良いアレルギー疾患の医療が受けられるようにすることや、発症の予防・重症化の予防および症状の軽減、生活の質の維持向上など、アレルギー疾患対策の総合的な推進を図ることが定められました。その中で、各県にアレルギー拠点病院を定めて、地域のアレルギー診療・教育・研究などの中心的な役割を担うことが求められています。

岐阜県のアレルギー拠点病院として、岐阜大学医学部附属病院が指定され、病院内にアレルギーセンターが組織されました。アレルギー専門医・指導医を含む医師と看護師、薬剤師、栄養士など多職種で構成されています。平成30年度には、医療関係者向け講演会を行いました。今年度には、一般の方向けの講演会なども企画しています。今回の調査は、岐阜県の委託を受けて岐阜大学医学部附属病院アレルギーセンターが行うものです。

調査票への記入要項（養護教諭向け）

アンケートのご記入について

1. アンケートは全28問で構成されています。**問題の前の「同意」の意思確認のチェックをお願いします。**
2. **原則として養護教諭（または相当の職種）を対象にした質問としています。**
3. アンケートの記入は、**問1～問26までは基本的に所属する学校の方針をご記入ください。**
4. **問27**については、お答えいただく**養護教諭の主観**でお答えください。
5. **問28**については、現場でお困りのことや、制度・体制などの改善の提案などご自由にお書きください。同じ紙の欄外に記載いただいても結構ですし、他の紙を添付していただいても差し支えありません。
6. アンケートは、質問紙にマークシートが入っていますので、少しレイアウトとして読みにくいところがあるかもしれません。
7. アンケートはA3用紙を半分にした形でA4として4ページになっています。マークシート読み取りソフトで読み取るようにつくられています。原則として無記名で取り扱うため、各ページがばらばらになってしまうことを防ぐために、切り離したり、他の紙をのり付けしたりしないでください。
8. アンケートの各ページの四隅に黒色の■があります。これはアンケートの読み取りに必要ですのでこの付近に文字などを書き込まないでください。
9. アンケートの中の□の欄を黒、紺などの濃い色で塗りつぶして下さい。  
ボールペンなどでも結構ですが、訂正できませんのでご注意ください。  
サインペンなどは裏写りして読み取りに影響する場合がありますのでご注意ください。  
鉛筆・シャープペンシルはHB以上の濃さのものでご記入ください。  
例： 問ア あなたは岐阜県に住んでいますか？ □いいえ ■はい
10. 一部の項目で選択肢の中に**適切な答えがない場合は**「□他\_\_\_\_\_」という選択肢の□を塗りつぶした上で下線\_\_\_\_\_の部分に記入してください。  
例： 問イ あなたの好きな色はなんですか？ □しろ □くろ ■他 やまぶきいろ  
解答欄が狭い場合は、欄外に記載していただいて構いません。その際、付近の選択肢の中にあるチェックボックス□と四隅の■にかからないようにお願いします。  
(チェックボックス□に重なってしまうと誤って読み取られる場合があります。)
11. 一部の選択肢で人数を聞くものがありますが、指定された欄（AからTとaからgがあります）に下の例のようにご記入ください。（細かい数字をお聞きして恐縮です。）  
例： 問ウ 1年1組の児童の数をY、欄に記入してください。  
そのうち、Z、卵焼きが好きな児童の数を記入してください。  
(人数は、032人と記載しても32人と記載しても構いません。)
12. 問2および問7、問8の質問意図について  
問2では、学校で把握できているアレルギー疾患がある人数を答えてください。これは、学校が対応する必要があるかどうかは問いません。一方、これらのアレルギー疾患がある人の中で学校で何らかの対応が保護者等から求められている人について集計していただき、中でも学校の求める文書を提出している人数を問7に、問8に提出していない人数を記載してください。尚、問7と問8の人数を合計すると、学校でなんらかの対応が必要な児童生徒の数となります。ここで学校と保護者、医療機関の連携の状況を調べています。

Y	3	2	人	Z	人
0				0	
1				1	
2		■		2	
3	■			3	
4				4	
5				5	
6				6	
7				7	
8				8	
9				9	
把握していない				把握していない ■	

注1：「食物アレルギー対応委員会（問4）」「アレルギー疾患個別対応マニュアル（問5）」「給食の対応レベル（問10）」については、「学校給食における食物アレルギー対応指針 平成27年3月 文部科学省」における用語です。

注2：「環境衛生管理としてのダニの測定（問20）」は学校環境衛生の基準（「学校環境衛生管理マニュアル『学校環境衛生基準』の理論と実践 平成30年度改訂版 文部科学省」参照）に基づくものをさしています。

アンケートにご協力ありがとうございます。用紙の隅の■は読み取りに必要なので周囲に何も記載しないで下さい。  
コンピューターで処理しますので、できるだけアンケート用紙を汚さないようにご配慮お願いいたします。ページ1/4

アレルギー疾患の学校現場での現状調査～岐阜県公立学校養護教諭へのアンケート～

該当箇所の□を黒く塗りつぶし、必要なら下線部\_\_\_\_に記入をお願いします。

同意確認欄→ このアンケートの情報が研究に用いられることに同意します。

問1 あなたのご所属の学校の種類と校区、児童生徒数についてご記入ください。

校区：岐阜 西濃 美濃 可茂 東濃 飛騨 児童生徒数：\_\_\_\_\_人

所在地の市町村名：\_\_\_\_\_

学校の種類：小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 他\_\_\_\_\_

問2 学校においてアレルギー疾患管理指導表などの書類提出の有無に関わらず、下記の疾患をもつ児童生徒の総数をA欄に記入してください。

B. 食物アレルギー、C. アナフィラキシー、D. アトピー性皮膚炎、E. 気管支喘息、F. アレルギー性鼻炎、G. アレルギー性結膜炎の人数を各欄に記入ください。

A	B	C	D	E	F	G
0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9

把握していない

アンケート用紙：養護教諭用

問3 学校として、アレルギー疾患管理指導表（以下「管理表」）を活用する方針としていますか？

- 「公益財団法人学校保健会」発行の「学校生活管理指導票（アレルギー疾患用）」を活用している
- 市町村教育委員会が独自に提示している「学校生活管理指導表」を活用している
- 学校独自の「学校生活管理指導表」や医師の診断書・指示書などを活用している
- 保護者からの申請書の提出で代用している 全く活用していない 他\_\_\_\_\_

問4 食物アレルギー対応委員会\*は開催されていますか。

開催されていない 開催されている→ その頻度・・・・年 \_\_\_\_\_ 回

→ 書類の新規提出や訂正があったときに追加で開催をしますか？ はい いいえ

→ 開催されている場合参加メンバーを教えてください。（複数回答可）

管理職\* 養護教諭 栄養教諭・学校栄養職員 学級担任 学校医 その他\_\_\_\_\_

\*管理職とは、校長・園長・副校長・教頭を含む

問5 アレルギー疾患個別対応マニュアル\*を作成していますか？

作成していない 作成している→ その見直し頻度・・・・年 \_\_\_\_\_ 回

→ 書類の新規提出や訂正があったときに追加で見直しをしますか？ はい いいえ

→ 食物アレルギー緊急時対応マニュアル（岐阜県教育委員会）を活用していますか？ はい いいえ

問6 食物アレルギー児の家族との面談は行っていますか？

実施されていない 実施されている→ その頻度・・・・年 \_\_\_\_\_ 回

マークは、黒、紺などの濃い色で塗りつぶして下さい。ボールペンなどでも結構ですが、訂正できませんのでご注意ください。ペンなどは裏写りする可能性がありますので遠慮ください。鉛筆・シャープペンシルはHB以上の濃さのものでご記入ください。

アンケートにご協力ありがとうございます。用紙の隅の■は読み取りに必要なので周囲に何も記載しないで下さい。  
コンピューターで処理しますので、できるだけアンケート用紙を汚さないようにご配慮お願いいたします。ページ2/4

**問7** アレルギーの配慮が必要な児童・生徒のうち、学校の定めた管理表または医療機関で発行された診断書などの類似の書類が提出されている人の総数を**Hの欄**に記入してください。  
このうち **I. 食物アレルギー**、**J. アナフィラキシー**、**K. アトピー性皮膚炎**、**L. 気管支喘息**、**M. アレルギー性鼻炎**、**N. アレルギー性結膜炎** の人数を各欄に記入してください。

H	人	I	人	J	人	K	人	L	人	M	人	N	人
0		0		0		0		0		0		0	
1		1		1		1		1		1		1	
2		2		2		2		2		2		2	
3		3		3		3		3		3		3	
4		4		4		4		4		4		4	
5		5		5		5		5		5		5	
6		6		6		6		6		6		6	
7		7		7		7		7		7		7	
8		8		8		8		8		8		8	
9		9		9		9		9		9		9	
把握していない		把握していない		把握していない		把握していない		把握していない		把握していない		把握していない	

**問8** アレルギーの配慮が必要な児童・生徒のうち、学校の定めた管理表または医療機関で発行された診断書などの類似の書類が提出されていない人の総数を**Oの欄**に記入してください。  
このうち **P. 食物アレルギー**、**Q. アナフィラキシー**、**R. アトピー性皮膚炎**、**S. 気管支喘息**、**T. アレルギー性鼻炎**、**U. アレルギー性結膜炎** の人数を各欄に記入してください。

O	人	P	人	Q	人	R	人	S	人	T	人	U	人
0		0		0		0		0		0		0	
1		1		1		1		1		1		1	
2		2		2		2		2		2		2	
3		3		3		3		3		3		3	
4		4		4		4		4		4		4	
5		5		5		5		5		5		5	
6		6		6		6		6		6		6	
7		7		7		7		7		7		7	
8		8		8		8		8		8		8	
9		9		9		9		9		9		9	
把握していない		把握していない		把握していない		把握していない		把握していない		把握していない		把握していない	

**問9** 給食の方式は以下のどれですか？（親子方式：ある学校で調理した給食を他校にも配送する方式）  
給食なし 単独校調理方式 親子方式 センター方式 デリバリー方式(業者弁当方式)

**問10** 給食の対応レベルは以下のどれですか？（学校給食における食物アレルギー対応指針 文部科学省 平成27年3月による）  
給食なし 詳細な献立表対応 一部弁当対応 完全弁当対応 除去食対応 代替食対応  
 →給食で代替食が提供できる場合、対応できるのは以下のどれですか？（複数回答可）  
給食なし 提供できない 鶏卵 牛乳 小麦 エビ その他 \_\_\_\_\_

**問11** アレルギー対応の一環で給食で提供しない事にしている食品はありますか？（複数回答可）  
ない 落花生 くるみ そば かに その他 \_\_\_\_\_

マークは、黒、紺などの濃い色で塗りつぶして下さい。ボールペンなどでも結構ですが、訂正できませんのでご注意ください。  
ペンなどは裏写りする可能性がありますのでご遠慮ください。鉛筆・シャープペンシルはHB以上の濃さのものでご記入ください。

アンケート用紙：養護教諭用





アンケートにご協力ありがとうございます。用紙の隅の■は読み取りに必要なので周囲に何も記載しないで下さい。コンピューターで処理しますので、できるだけアンケート用紙を汚さないようにご配慮お願いいたします。ページ4/4

- 問25 前年度1年間に実際に起きた各種事象の、「のべ人数」を下欄に記入してください。  
 食物アレルギーの症状で内服や保健室で経過観察など、何らかの対応を要した人数・(a欄)  
 食物アレルギーおよび食物によるアナフィラキシーの症状による救急搬送人数・・・(b欄)  
 学校での活動の一環でエピペンを職員または児童生徒、保護者が接種した人数・・・(c欄)  
 事前に申告されていなかった新規発症の食物アレルギー症状による何らかの対応数・(d欄)  
 事前に申告されていなかった新規発症の食物アレルギー症状による救急搬送人数・・・(e欄)  
 医療機関への受診を要した人数のうちアレルギー以外の病気(f欄)と外傷(g欄)の人数

a	人	b	人	c	人	d	人	e	人	f	人	g	人
0		0		0		0		0		0		0	
1		1		1		1		1		1		1	
2		2		2		2		2		2		2	
3		3		3		3		3		3		3	
4		4		4		4		4		4		4	
5		5		5		5		5		5		5	
6		6		6		6		6		6		6	
7		7		7		7		7		7		7	
8		8		8		8		8		8		8	
9		9		9		9		9		9		9	
把握していない		把握していない		把握していない		把握していない		把握していない		把握していない		把握していない	

アンケート用紙：養護教諭用

- 問26 学校給食において食物アレルギー対応が必要な児童生徒等について、誤配や誤飲・誤食を防止するために実施していることを下記項目より選択し回答ください。  
 (複数回答可)

- 校長等による検食の際、その日の食物アレルギー対応について確認している
- 食物アレルギー対応が必要な児童生徒の個別対応が確実に実施できるよう役割分担ができています
- その日の食物アレルギー対応方法を記載したカード等を活用し、配膳時に確認している
- 食物アレルギー対応食(弁当を含む)を、該当児童生徒本人が直接受け取るようにしている
- 除去食や持参食を食器に移し替える際は、学級担任が指導、見届けを行っている
- 学級担任が不在の際、代わりに指導に当たる教員に食物アレルギー対応が確実に伝わるよう、対処方法を記載したカード等で引継を行っている
- 他の児童生徒に対し、誤配がないよう配食することや該当児童が自分で除去することについて、実態に応じた協力ができるように指導している
- 原因食品が該当児童生徒の食器に付着しないよう、ふたやラップ等がされていることを教員が確認している
- 他

- 問27 アレルギー疾患をもつ児童生徒の受け入れについて、5段階でお聞きます。(あなたの主観でお答えください。)

質問	1	2	3	4	5	6
入学時の受け入れが難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
給食センターとの連携が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療機関との連携が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
内服薬のタイミングが難しい	思	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
エピペンの使用タイミングが難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
救急搬送の方法の確認が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保護者との連携が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
職員同士の連携が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保護者とのやり取りが難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保護者の要求への対応が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
配膳への注意が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
調理実習などへの対応が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
校外学習への対応が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
動物飼育への対応が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
本人への説明が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
患児の友人への説明が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 問28 アレルギーを持つ児童生徒の受け入れでの課題などあれば欄外か別紙に記載してください。

マークは、黒、紺などの濃い色で塗りつぶして下さい。ボールペンなどでも結構ですが、訂正できませんのでご注意ください。ペンなどは裏写りする可能性がありますのでご遠慮ください。鉛筆・シャープペンシルはHB以上の濃さのもので記入ください。